

し せい にん
東邦大学付属
東邦中・高等学校
同窓会「自生人」会報

令和4年度号 No.42 令和4.7.15発行
〒275-8511 千葉県習志野市泉町2-1-37
東邦大学付属東邦中・高等学校同窓会
TEL/FAX 047-472-1160
URL <http://www.shiseinin.org/>
E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

目 次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校長あいさつ…………… 3
- 同窓会のこの1年…………… 4
- 同窓会理事会からの報告…………… 6
- 特別寄稿…………… 8
- 同窓生のページ…………… 12
- 学校の近況…………… 28
- アワード贈呈部活からの報告… 29
- 広報活動報告…………… 32
- 令和4年度入試報告…………… 34
- 新入会員を迎えて…………… 36



題字：創立者 額田 晉先生 書

同窓会総会開催案内

日時 令和四年九月二十四日(土)

受付開始十四時

総会開始十四時半

会場 東邦大学付属東邦中・高等学校
セミナー館四階視聴覚大ホール

議事

(一) 報告事項

① 令和三年度事業報告

② 令和三年度収支決算報告

(二) 審議事項

第一号議案 令和三年度収支決算報告の承認

第二号議案 令和四年度事業計画案

第三号議案 令和四年度収支予算案

第四号議案 会則規定改正の件

第五号議案 同窓会会費規程新設の件

学校の近況報告

・ 東邦中学入学を取り巻く状況について

・ 大学進学状況について

・ その他

※母校の先生方からご説明をいただきます。

懇親会 今年度は実施しません。

「お願い」

・ 「総会当日のコロナ対策に関する留意事項」を同窓会ホームページに掲載しますので、総会出席予定の会員の皆様は必ずご確認ください。

・ 感染拡大の状況や政府の発表内容等により、総会の開催に変更が求められるような場合は、同窓会ホームページ (<http://www.shiseinin.org/>) にてお知らせいたします。

母校高校・中学創立七十年・六十年を祝して

東邦中等高等学校同窓会「自生人」会長 鮎川 二郎（七期卒・現千葉商科大学名誉教授）



◆はじめに

皆様（会員総数二三八六五名）には、コロナ禍が未だ収束不明の中にも拘わらず、同窓会「自生人」の会務運営に多大なるご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

表題に掲げました通り、今年度、母校は創立七十年・六十年の周年を迎えます。同窓会組織を代表し、心からお祝い申し上げます。また、母校の輝かしい発展を支えてこられた関係者の皆様に衷心より敬意を表する次第でございます。

同窓会では昨年度、周年事業「寄付」の先駆け企画として、周年記念バッグを作成・配付（本会報五ページをご参照ください）しました。周年事業当該年度の現在、応分の寄付を実現すべく理事会で準備をしているところです。

※寄付の内容は総会で確定することになります。

◆東邦大学百周年記念事業への支援

昨年、連続五期目の理事長に就任された炭山嘉伸先生の卓越したリーダーシップの下、最近の東邦大学の躍進は目覚ましいものがあります。新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の中心メンバーとして東邦大学の先生方が活躍されていることは会員の皆様もよくご存知でしょうし、二〇一八年七月に開院した新大橋病院は「水と緑に囲まれた都会のオアシス」のような都市型モデル病院として、社会の大きな注目を集めています。学校法人東邦大学に関係する身として嬉しく誇らしい限りです。

二〇二五年に東邦大学は創立百周年を迎えます。現在、学校法人東邦大学は、「自然科学の知と学びの先導的学府となる」を掲げたグランドデザイン2025の下、組織を挙げて記念事業を推進しています。私たち同窓会「自生人」も、できる範囲で記念事業の支援を実行したいと計画しています。会員の皆様の格別のご理解をお願いいたします。

◆同窓会定例総会の開催について

同窓会組織を運営するための「審決の場」

である総会ですが、令和二年度はコロナ禍の影響で実施することができませんでした。昨年もコロナ禍が終息したとは言いがたい状況でありましたが、会員の皆様の格別のご理解、ご協力、また、母校の先生方、事務職員の方々のご支援を得て、九月二十五日に母校施設にて総会が実現いたしました。（本会報四ページに詳しい報告があります。）

今年度もコロナ禍の先行きは未だ不透明ですので、昨年同様、開催時期を九月に遅らせ、コロナ対策を図って総会を開催する予定です。今年度の総会に関する詳細は、本会報六ページ、および本会報に同封の「令和四年度総会開催について」でご確認ください。皆様のご理解・ご協力を心よりお願いいたします。

◆むすびに

同窓会「自生人」は、母校と保護者会（習志会）との三位一体の関係を常に維持しながら学校法人東邦大学や母校への支援と同窓会会員相互の交流促進を念頭に置き、永続的な活動を展開していく所存です。会員の皆様におかれましては、今後ますますご健勝にてご活躍の上、同窓会事業へのより一層の参加と連携、協働を賜りますようお願い申し上げます。

東邦高校創立七十周年

東邦大学付属東邦中学高等学校 校長 松本 琢司



同窓会の皆様方には、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご支援を賜りまして、心から感謝申し上げます。

一部活動やコロナ禍におけるご支援に加えて、東邦高校創立七十周年事業へのご支援もいただきまして誠にありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

◆高校創立七十周年

東邦高校の創立は昭和二十七年（一九五二）年、東邦中学校の創立は昭和三十六（一九六一）年です。本年、高等学校は創立七十周年、昨年中学校は六十周年を迎えました。東邦中高のルーツは、額田豊・晋ご兄弟が一九二五年に創立した帝国女子医学専門学校にまで遡ります。関東大震災からわずか二年後のことです。学校法人東邦大学は三年後に創立百周年を迎えますが、その創立者が中等教育に強い関心を持ち、戦後新制大学となった東邦大学の付属校として東邦高校を創立しました。東邦中高は東邦大学と同じ建学の精神「自然・生命・人間」を掲げ創立された当初から、医・歯・薬学部、理・工学部など自然科学・生命科学方面への大学進学者が多いことを特色としていましたが、アカデミックで自由な校風を有する大学

の付属校としての面を土台に、進学校としての面を大きく発展させていき、その後千葉県下有数の進学校となりました。この間、卒業生のみならずをはじめ多くの方々に物心両面にわたるご尽力ご支援をいただいたことに心から感謝申し上げます。

本校の創立七十周年記念事業としては、記念式典及び記念講演は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮して取りやめましたが、人工芝グラウンドの全面改修、教室の大規模改修、記念誌の発行、在校生への記念品贈呈を予定しております。すでに、同窓会からは在校生からデザインを募集したオリジナル・バッグが、この春の卒業生と今年の在校生に贈られております。ありがとうございます。

◆コロナ禍二年目の昨年度

次に、主に昨年度の学校の近況をご報告します。令和三年度は五月の集団感染発生に伴う臨時休校、第六波に伴う学年閉鎖（中二）、同じく第六波に伴うまん延防止等重点措置発出下での予防的措置としての臨時休校がありました。これらの休校期間においては、課題や動画を配信してのオンライン授業を実施しましたので、学習進度の方は次年度で吸収・挽回できるほどのわずかな遅れにとどまりました。学校行事はコロナ二年目ということで、文化祭は卒業生や一般の方々の来場までは難しくとも、在校生の保護者の方々には出席いただけるよう計画をしておりましたが、感染状況に鑑みて在校生のみでの実施となりました。時間や日程を短縮して、

例年通りとはいかなくとも、二学期に中高文化祭、中学体育祭、高校スポーツデー（二学期から延期）、中学音楽祭などが実施できたことは、生徒の心身の成長に及ぼす影響の大きさを考えると大変良かったと思います。今年度は昨年度よりもさらに一歩進めた形での実施を検討しております。宿泊を伴う行事である校外学習（中二）、修学旅行（中三・高二）はいったん延期しましたが実施できませんでした。コロナ三年目の今年度は、感染症対策を行いつつながら実施する予定で準備を進めております。

◆中学校入試

中学校入試は、二〇二二年度入試もコロナ禍の下での実施のため、感染症対策を施し、体調不良者に別日程の入試への振替を認めるなどの措置を取って行いました。推薦・帰国生・前期・後期と延べ四つ（日程は三日）の入試を経て、中学校は三〇〇名の定員に対して、三〇七名が入学しました。

◆大学入試結果

今春の卒業生の進学実績については、進路指導部から詳細につきましては報告がありますが、完全中高一貫化の第三期生（六十八期生）は、コロナ禍の下で制約の多い高校生活の最後の二年間を過ごし、授業も変則になる経験をしたものの、第一期生、第二期生同様期待されていた成果を上げてくれました。

一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、生徒が学校でより一層伸び伸びと過ごせる日が来ることを願っています。

最後になりましたが、卒業生の皆様方のご健康と益々のご活躍、並びに同窓会のご発展を心よりお祈り致します。

（令和四年五月）

同窓会のこの一年

同窓会副会長 渡 邊 和 彦 (二十期生 歯科医院経営)

新型コロナウイルス禍の中での同窓会の活動(令和三年七月〜令和四年六月)を報告させていただきます。

同窓会会報「ならし」

第四十一号の発行

「定例総会開催のご案内」とともに皆様の手元へ送付いたしました。同窓会の新しい仲間、六十六期生・六十七期生の方々から力強い抱負を寄せていただき、「同窓生のページ」に掲載しました。



同窓会総会

九月二十五日、母校施設(セミナー館大会議室)にて二年ぶりに総会を実施することができました。同窓会会員の皆様の格別のご理解とご協力、母校の先生方・事務職員の方々のご尽力に心より感謝いたします。

役員改選も含め、理事会が用意した議案がすべて承認されました。(議決結果の詳細は同窓会ホームページに掲載してあります)



同窓会新役員

鮎川 二郎 七期 会長 大学名誉教授

渡邊 和彦 二十期 副会長

歯科医師、歯科医院経営

渡邊 学 三十一期 副会長

医師、大橋病院教授

岡田久仁子 十五期 理事

会社役員、元母校教諭

御喜 和 十八期 理事 前母校副校長

鈴木 実 十八期 理事 会社役員

北川 太郎 三十一期 理事

薬剤師、薬局経営

五十畑昭彦 三十一期 理事 弁護士

三矢 宏 三十二期 理事 会社経営

中島 正子 三十二期 理事 歯科衛生士

前川 智子 三十二期 理事 母校教諭

岡田 隆治 三十六期 理事 母校教諭

小山 将平 五十六期 理事 会社経営

牧田 瑛介 五十六期 理事 会社員

藤内 圭一 十八期 監事

歯科医、歯科医院経営

田浦 智子 十九期 監事 薬剤師

母校卒業生行事に向けての取り組み

コロナ禍への配慮から、高校六十八期生の卒業式は校内関係者のみ（生徒、先生方、保護者）で行われました。同窓会入会式は実施できませんでした。

なお、卒業記念品と（ペン型印鑑、特製ペーパーバッグ）と特別会報十八号は卒業学年の先生方、同窓生教員の方々のご協力を得て配付することができました。この紙面を借りて謝意を表します。

母校周年事業への先駆け 企画の実行

昨年十二月末、全校生徒に向けて「六十・七十周年」記念バッグ作成デザイン募集を行いました。その結果、十パターンの応募がありました。同窓会役員の投票の結果、高校三年A組青山芳乃さん（写真左）、高校二年A組富田心芝さん（写真右）の作品が採用されました。バッグにプリントする際に微調整の打ち合わせを数回行い、三月の卒業式に配布が間に合いました。また、令和四年度の新入生にも配布いたしました。

使い方は色々ですが、体操服や部活の荷物を入れ使用してきています。



母校への支援

- 一. 同窓会アワード(母校生徒への報奨制度)
 - ・報奨金
 - 規程に従い、次の部活に報奨金を贈呈しました。(学校の近況のページに関連記事があります。)
 - 高校水泳部
 - 中学水泳部
 - 中学女子硬式テニス部
 - 中学サッカークラブ
 - 高校スキー部
 - 中学スキー部
 - 二. 「東邦大学のルーツをたどる」冊子制作
 - 中学水泳部
 - 中学女子硬式テニス部
- 例年通り、学校法人東邦大学理事長、炭山嘉伸先生著「東邦大学のルーツをたどる」を新入生に配付しました。
- 三. 母校行事への参加・協力
- コロナ禍の影響を考慮し、母校の先生方意向に沿いたいと考えています。



同窓会役員役割分担表 (令和4年7月現在)

総務 (危機管理・企画)		会長 鮎川 二郎		副会長 渡邊 和彦		渡邊 学	
庶務 御喜和 鈴木実 三矢宏 北川太郎 五十畑昭彦 岡田隆治		広報・会報 御喜和 岡田隆治 前川智子		名簿管理 岡田隆治 五十畑昭彦 小山将平 牧田瑛介		会員交流・WEB管理 三矢宏 岡田久仁子 中島正子	
監事 藤内圭一 田浦智子		事務局		事務パート 尾風礼子		TEL・FAX : 047-472-1160 E-mail : shiseinin@yahoo.co.jp	
御喜和 鈴木実 岡田隆治 前川智子							

☆ 補足説明

◎会長、副会長は会務のすべてを総括する。

・同窓会総会の企画・運営：北川理事、三矢理事が担当する。総会における役割分担の詳細は別に定める。

・同窓会総会、理事会の資料作成：会長、副会長の意に従って事務局が作成する。

・同窓会総会、理事会の議事録作成：事務局が作成し、理事会の場で確定する。

同窓会理事会からの報告

一・新型コロナウイルス禍の中での会務の進め方
 新型コロナウイルス禍への対応として、理事が一堂に集まらざる会議の実施を自粛し、メール、電話などにより会長・副会長・理事間で連絡を取りながら会務を遂行しています。(同窓会役員役割分担表「令和四年七月現在」参照)
 令和四年度に入ってから、オンライン会議(zoomミーティング)をほぼ毎月実施しています。



二・令和四年度同窓会総会に向けて

① 総会資料について

同窓会ホームページに掲載しました。

② 審議議案に関して

今回の総会では定例の議案(第一～三号議案)の他に新たな議案を用意しました。総会資料でご確認ください。

★今後、総会に関する連絡は同窓会ホームページにて行います。

③ 同窓会の各学年幹事の委嘱について

同窓会の会則に「学年幹事は理事会と協力して会務を補佐し、各期の連絡調整を行う」という条文があります。同窓会理事会では「学年幹事の委嘱」に積極的に取り組むたいと考えています。自薦、他薦を問いませんので、事務局まで情報を寄せてください。

同窓会事務局からの報告

一・母校セミナー館内同窓会室での事務局業務について

会報の裏表紙(三十六ページ)をご覧ください。

二・同窓会ホームページと新サービスシステムについて

当会報七ページをご覧ください。

三・同窓会会報への寄稿のお願い

皆様からの「同窓生のページ」への寄稿を心よりお待ちしております。詳細は同窓会事務局にお問い合わせください。

四・同窓会会報の発行・配布に関して

同窓会理事会では、かねてよりの同窓会会報の郵送を変更して、同窓会ホームページで閲覧していただくことを検討してきました。昨今のインターネット環境の普及進展による情報発信システムへの効率的対応策と、会報作成・郵送の経費を「同窓生どうしの親睦支援」、「母校生徒への支援」により多く充てたいという思いに根差した検討であります。今後の検討で詳細が確定しましたら総会開催通知または同窓会ホームページにてお知らせします。

★ 同窓会活動への寄付協力をお願いします

- ・ 一口 壹千円 二口以上
- ・ 振込先 千葉銀行船橋支店店番号 015
- ・ 普通口座 3353747
- ・ 口座名 東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会

※寄付協力は会員の自由意志によるものです。ご質問などございましたら事務局に連絡してください。なお、令和元年度は計十四万三千円の寄付をいただきました。

ホームページのご案内

**** 個人情報を会員自身で安全に管理できるホームページ****

会員の皆さまからご提供頂いている個人情報を、セキュリティ万全のサーバーで一元管理。
会員自身で内容の確認と変更ができます。

URL : <http://www.shiseinin.org/>

同窓会
ホームページ



2020.11.28更新
IEまたはChromeでアクセスしてみてください。Edgeではパスワード画面に到達できません。

自然 生命 人間

ユーザー管理用サイト

自生人(しせいじん)は同窓会の愛称です。
自然 生命 人間
パスワードは同窓会報に掲載されています。
自生人専用サイト入口

個人会員専用サイト
会則・パスワードは別冊です
・各種登録情報更新(住所変更)
・各種お申込み
会員専用サイトです

自生人間関係以外の立ち入り禁止しています。
クリックして入場してください。

クリックして入場してください。

パスワードは同窓会報に掲載してあります。
(毎年度変更予定)

パスワードは同窓会報と同封している用紙に
掲載してあります。同窓会報に利用方法を
掲載していますので、併せてご利用下さい。

よりよい情報を自生人にお伝えるためにセキュリティを強化しました。
専用サイトでは、同窓会報の他、記念誌の掲載情報や大学の広報など
自生人ならではのネットワークを駆使したレアな情報を掲載しております。
もちろん今後は、各期の同期会やクラブの記念行事、恩師や同級生の情報など
幅広くご紹介していく予定です。ご期待ください。

連絡先の登録がご自分で変更が可能になります。
ご利用ください。

自生人専用サイト

ID:shiseinin
PW:toho2013

会員専用サイト

ログインしてください

個人会員専用サイトのログイン・個人情報の変更

- ☑ 会員用サイトにログインしましたら、「マイページ」にてご自身の個人情報をご確認をよろしくお願ひします。今後、登録情報に変更がございましたら、こちらのマイページで変更して下さい。

サーバーへの侵入検知、ファイアウォールを設置し、コンピューターウイルス、悪意ある侵入者からの攻撃へ対策しています。
またマイページ内の通信はSSLを使用し、情報を暗号化して通信することで、データの盗聴や改ざん、なりすまし等を防いでいます。



特別寄稿

◆退職された先生方からご寄稿いただきました。

東邦高校に感謝

国語科 木村 誠 一

東邦高校には、平成二十七年から令和四年までの七年間お世話になりました。

振り返ってみれば、私は、昭和五十四年に岩手県の盛岡市にある小さな小さな私立の女子高に初任として赴任したのが教員生活の始まりでした。その学校は、明治の教育者・羽仁もと子の自由学園の流れをくむ学校で、キリスト教主義に基づき、「生活即教育」をモットーとする（今考えてみれば）かなり異色の学校でした。毎朝、全校職員生徒が集まって行う礼拝に始まり、教育課程には、かなり「労作教育」が取り入れられていました。

（ちなみに初任の私の朝一番の仕事は、毎朝農園のハウスの水まきをすることでした。）修学旅行は、「体験学習旅行」と言って、クラス毎に岩手県内の農村に三泊四日で農家に分宿し、農業体験を行うものでした。また、日常から、クラスの話し合いを重視し、その集大成として、三年時には「修養会」と呼ぶ二泊三日のクラス毎に行う宿泊行事がありました。そこでは、「人としてのあり方や生き方」「自己の他者との関わり」「自分はどうか生きるのか」等が本

当に真剣に話し合われました。

る学校だったとはいえ、私の教員としての基礎を形成してくれたのではないかと思っています。

その後、家庭の事情で、千葉県に戻ってきて、県立の高校に勤務することになりました。県立高校は、実業高校から進学校まで、通算四校、三十一年間勤務しました。俗に言う教育困難校から進学校まで、色々な学校に勤められたことは、私の教員としての視野をかなり広げてくれたのではないかと思っています。

きつと停年まで県立高校に勤務することになるだろうと思っていた所、ひよんなきつかけから、教員生活の最後に、この東邦高校にお世話になることになりました。年齢は、五十八歳から六十五歳です。生徒からすれば、「おじいちゃん」と同世代です。赴任してすぐに「キムじい」という、うれしいニックネームを頂きました。

「キムじい」は、七年間、この東邦高校にお世話になり、さらに嬉しいことには、その内、（1・2・3年を）二回りさせて頂きました。そして、この春三年G組担任の生徒と一緒に、私もめでたく卒業です。卒業式の日には、クラスの生徒が温かく、私の停年を祝ってくれました。優秀な先生方と心あたたかな生徒に支えられ、教員生活の最後にこの東邦高校に勤務できたことは、最高に幸せでした。有難うございました。東邦高校には、本当に感謝しています。

社会「日本史」担当

小村 卓 司

私が教師をめざしたきっかけは、高校二年生の世界史を担当していた先生に大きな影響を受けたからでした。現代の国際問題の原因

を歴史をさかのぼることで解き明かすという授業にワクワクがとまらなかつたのです。もともと生物が好きで、その当てもめずらしい昆虫がいれば採集して標本にしていた自分は理系志望だったので、自分も歴史に携わりたいという気持ちで文転したのでした。大学時代は教員志望でしたが、教職には縁がなく、サラリーマン生活を続けるうちに、もう一度教職への夢がわき起こってきました。シンガポールの学校を経て、縁あって本校にお世話になりました。宮島先生（国語）・北村先生（地歴）・久富先生（公民）・古川先生（数学）・山口先生（数学）・長妻先生（理科）・朝重先生（体育）・山内先生（美術）・大谷先生（家庭）らの方々と同期でした。

赴任の年から中一（四十九期生）の担任を持たせていただきました。また担当の歴史が二単位ということもあって、中一学年全八クラスを持たせていただいたのも幸いでした。今はなかなか生徒の名前を覚えられないのですが、当時四十五人学級で八クラス学年全員の名前をすぐに覚え、中二中三と学年主任をさせていただいたこともあり、四十九期生とは深い絆が出来たと思います。今回の定年退職にあたっても有志が集まってくれ、会食をするなど楽しくなつかしい時間を過ごすことができました。

部活では、生物好きということもあって生物部を長く持たせていただき、毎年のように夏休みの合宿をしたり、館山にウミホテルを採集に行ったりしたことも楽しい思い出です。また教員生活後半は、退職された国語の小野先生のサブとして高校演劇部の顧問をさせていただきました。今は物理の度会先生に引き継ぐことが出来、安心して居るところです。

校務分掌では進路指導部を合計十四年間担当させていただきました。五十八期生の学年主任

をさせていただき中三まで受け持ったところで山岸先生から引き継ぎ、五年間進路部長を担当させていただきました。その最初の年に東京大学の合格者数が現役一名、浪人一名にまで落ち込んでしまいました。本校の進路指導は生徒の自主性を重んじ、無理な進路指導は行わないことが教員の共通認識でしょう。一方本校の生徒の特徴は、医学部志望者が多いということは今も昔も変わりません。大変に志が高く、応援しがいかなければなりません。しかし医学部志望者以外の生徒は、能力は強いながらも志望大学は低めに設定する傾向が強いです。そもそも東京大学を志望する生徒の数が少ないので



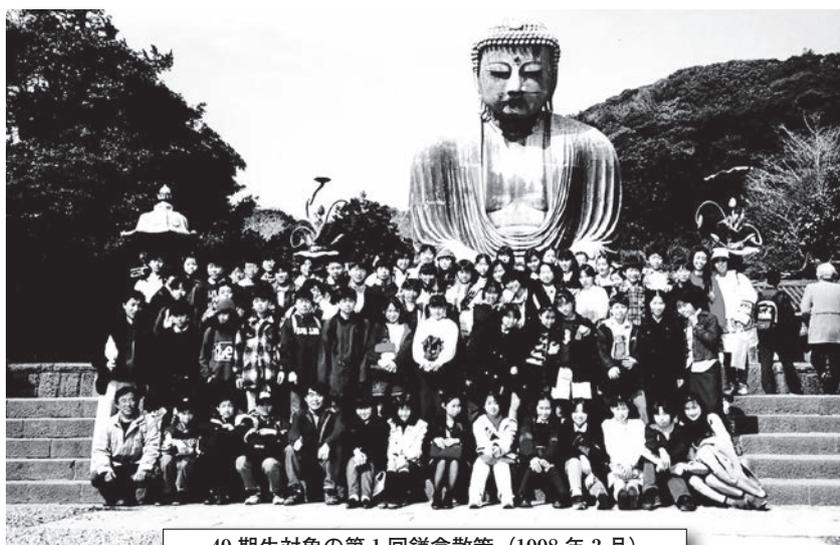
中1B組(49期生)を対面式に引率中(1997年4月)

す。それまでの受験者数は多くて十名、少ない年では二、三人にしか過ぎません。これでは現役合格者が一名になる年が来ても不思議はないでしょう。ゼロになってもおかしくはないので。本校の生徒の能力は高いのです。これを自然な形で東京大学などの国立難関大学を志望するように、東大見学会・東工大見学会・一橋大見学会を高一対象に立ち上げ、卒業生に大学構内を案内してもらう形をとりました。先輩からの生の声は大きいのです。次に従来から行っていた高三向け進路ガイダンス(卒業生による合格体験談)を拡充して、高二、高三対象に四つの志望カテゴリーに別け、それぞれ二、三人の卒業生を集め、合格体験談を話してもらいました。事後の生徒からのアンケートはおおむね好評でした。これらに加え、生徒が予備校に通わなくても難関大学に合格できる体制を作りたいと考え、通称七限授業を立ち上げました。アンケートの結果、高三では約九十%の生徒が予備校に通っていることが判明し、何とか学校で力をつける体制に持っていきたかったのです。自分自身も難関大学の論述問題指導に対応すべく、猛勉強したのも今はなつかしい思い出です。また新しい取り組みに際し多くの先生方のご指導ご協力ご批判をいただき、つくづく教員の仕事は共同作業だということを思い知らされました。

進路部長を退いてから、六年間高三学年を五回、高二を一回担当させていただきました。高三担任を四回持ち、卒業生を送り出すことができました。それぞれの諸君がこれから社会に出て自分の夢を実現してくれることを期待し楽しみにしています。最後の二年間は古巣の中学に戻り曾根学年で

お世話になりました。曾根先生をはじめ学年団の先生方にはいろいろご配慮をいただき、ありがとうございます。

二十五年間の東邦中高での教諭生活は、自分では第二の人生だったのですが、社会人生活のすべてだったような気持ちです。お世話になった皆様のご健康とご多幸をお祈りするとともに、卒業生在校生の皆様のご活躍を期待しています。



49期生対象の第1回鎌倉散策(1998年3月)

江戸川乱歩賞を受賞された齋藤英一郎氏
(三十八期生)にご寄稿いただきました。

あの日、仕掛けた伏線

三十八期生 齋藤英一郎



写真提供 / 講談社

かつて、僕は「齋藤英一郎」だった。「齋」の字が本当は「齋」であり、戸籍上の名は「齋藤英一郎」であると知ったのは、大学を卒業して社会に出た時のことだ。

この事実を教えてくれたのは、最初に勤めた会社で社会保険の手続きをしてくれた人事部の方である。いくらなんでも「齋」だとわかっていたはずの親に確認すると、「書くの面倒だからずっと『齋』にしてた」という答えが返ってきた。えっ？ 卒業証書も卒業アルバムも、これまで生きてきた証は何もかも「齋藤」として記録されてるのだけど……。自分は「齋藤」であると刷り込まれていた僕は、軽いアイデンティティ・クライシスに陥ったものだ。

その二十数年後、僕はもう一つの名前を得ることになった。

「齋藤詠一」。

投稿した小説で賞をいただき、小説家としてデビューした僕のペンネームである(せっかくペンネームにしているのに、同窓生の皆さんに

はこの文章でバレてしまうわけだが。まあ、ここの話という話で)。

投稿時のペンネームでは本名と同じ「齋藤」だったものを「齋」の字にしたのは、選考委員のとおる先生が「書くの面倒だから『齋』になよ」とどこかで聞いた話にも似たアドバイスをくださったからだ。

こうして僕は、結局「齋藤」であり「齋藤」でもあるという状態に落ち着いている。

のつけから、全国のサイトウさん以外はあまり興味をなさそうなサイの字問題で原稿用紙一枚分くらい使ってしまった。とはいえ、中学や高校の頃は「齋藤」で通っていたのだから、当時の先生やクラスメイトは僕をその字で認識しているはずだ。ましてや在学中それほど目立つ存在ではなかった(と思う)僕である。説明しておかないと、「齋藤? 誰だっけ」と首を傾げられかねない。

さて、「齋藤」と書かれた卒業証書を手に校門を出た日から、おそるべきことに三十年という歳月が流れた。あの銀杏並木の道では、今もアスファルトに木漏れ日が揺れているのだろうか。友と歩いた大久保の街は、今どうなっているだろうか。

昨今は便利なもので、ある程度はGoogleマップで確認できてしまう。味気ないようにも思うが、小説の仕事でも遠隔地の取材代わりに使うことはあるのだから文句は言えない。

ストリートビューを開き、なつかしい通学路をたどってみた。

京成大久保駅から帝国陸軍鉄道連隊の演習線跡という道を渡り、商店街の入口のアーチをくぐる。チェーンの飲食店が並ぶ中、ところどころの建物がかるうじて当時の面影を残しているものの、よく寄り道して『オペレーションウルフ』のマシニングを撃ちまくったゲームセンターや、『十七歳の地図』を尾崎豊ばりにセン

チなため息をつきつつ歌ったカラオケ屋は、影も形もない。

習志野スポーツのところでバス通りを越えた先には、やはりよく立ち読みした本屋さんがあったはず……。ああ、二階だけになってしまったけれどまだ営業しているようだ。そこから少し行けば、東邦大学のほうへとピタゴラス通りが斜めに分岐している……。

心地よいノスタルジーに身を浸しているうちに、やがて青臭い苦悩や煩惱の記憶も芽づる式によりがえってくる。

歳を重ね、たいいの感情には耐性ができたつもりになっていただけで、自意識を煮詰めた塊が胸の中で発熱していたような、当時の感覚を思い出せばなんとも居たたまれなくなるもので、パソコンの前で悶絶してしまう。

キラキラというよりはキラキラしていて、訳もわからぬままに苛立っていた。それでも、明日だけは根拠無く信じていた。それらすべてを含めて、僕がまだ「齋藤」だったあの日々は、たしかに青春と呼べる時代だった。

そしてその頃、多くの時間を過ごした母校の、中学と高校それぞれの校舎から渡り廊下でつながれた本館。二階の薄暗い廊下の先にあった図書室で、僕は自分自身気づかぬうちに、いざれ再び「齋藤」の名を名乗るためのものを仕込んでいた。

図書室でふと目に留まり、棚から抜いた一冊の文庫本。貸出カードに名前を書いて持ち出した本は、小松左京『復活の日』である。

南極を舞台にしたそのSF小説を、僕は夢中になって繰り返し読んだ。それが三十年後、自らの運命を変えるきっかけになることなど、詰め襟の制服を着た中学生には当然ながら知る由もなかった。

家が書店だったからか、本は好きだった。文章を書くことにも、あまり抵抗はなかった。中学の修学旅行の文集に載せる文を、椎名誠さん

のエッセイ風の文体で書いてら皆に結構面白がって貰えたのを覚えている。女子たちにも大ウケで、それがすべてが始まりでした、などというのはいささか話を盛り過ぎではあるが、とにかく僕が大いに気を良くしたのはたしかだ。自分は文章を書ける人間なのだという中二病めいた思い込みはやがて、大学で入った旅行サークルで紀行文のようなものを書くきっかけにもなった。そして、そこで再び気を良くした僕は、迫り来る就職活動の中で、「文章で身を立てる」ということを考え始めた。

初めて小説を書いたのも、大学生の頃だ。しかしその道に進むためには、才能も努力も、何もかも足りなかった。

大学卒業後は、小説の投稿を続けながらも、システムエンジニア、NGO職員、メーカーの人事と、いくつかの職を経験した。

そのようにして、二十数年が過ぎた。若いうちに華々しくデビューを飾るといふ妄想が実現することはなく、気がつけばどこからどう見ても中年、かつてカラオケ屋でネタとして歌っていた爆風スランプの『四十五歳の地図』のように、「私の青春を返せ 輝くときめきを戻せ」とぼやきたくなる生活を送っていた。もはや笑えるネタではない。

潮時、という不吉な単語が頭の片隅をかすめつつ、それでも次の作品を書き始めた二〇一七年の春。出張の仕事が早めに終わり、帰りに何げなく立ち寄った博物館で、南極に関する展示を見た。ふいに脳裏によみがえったのは、『復活の日』だった。その時、今度書く話の舞台は



同期の鈴木大介さんと、同じ文庫レーベルで再会。書見台は中高六ヶ年皆勤賞でいただいたもの。

南極にしようと思いついたのである。

そうして書き上げた冒険ミステリー『到達不能極』によって、僕は江戸川乱歩賞を受賞することになる。

それを知らせる出版社からの電話を切った後、興奮と、少しの恐怖の中で僕は気づいた。

あの日、出張に行ったこと。仕事が終わったこと。何の気なしに博物館に立ち寄ったこと。それら重なり合った偶然の、最後のピース。遠い日、あの本を母校の図書室で借りたこと。それこそが、僕を憧れていた場所へ導くための三十年越しの伏線だったのだ。

——伏線。

小説家となった僕が、常に考えていることである。物語の途中に出てくるちよっとしたエピソードが、後から「あれにはこんな意味があったのか!」となるやつだ。

そういえば会社で、新卒の学生の手続きをした際に戸籍通りの漢字で書くように指導したことがあった。それも、一種の伏線回収だったの

かもしれない。
この寄稿依頼をいただいたことも、そうだろうか。あらためてお礼やお詫びを伝えたい同級生はいるものの、もう会う機会はないだろうと思っていたのだ。一方的で申し訳ないけれど、この場を借りて、あの時はありがとう。それと、あの時はごめんさい。

習志野の学び舎で過ごした日々は、Googleに訊ねたところで決して検索結果には出てこない。

あの頃に何を見聞きし、何を感じ、何をしたらかは、僕らの記憶の中だけにある。そしてそれは、人生の物語に仕掛けられた伏線でもあつたはずだ。物語の序盤、あの舞台で、誰もがそれぞれの伏線を張っていたのだ。

僕らはもう、五十肩の話で盛り上がるような歳になってしまった。それでも、回収できていない伏線はきつとある。
物語は、まだ終わっていないのだから。

※文中には、現在、いや当時も不適切とされる行動が描写されていますが、時効と一方的に解釈し、あえて記述しています。なお、この文章はフィクションではなく、実在のいかなる組織・個人とも関わりがありません。



最新刊『レーターの大河』（講談社）



◆六十八期生

新しい仲間六十八期生から力強い抱負が届きました。

六年間の東邦生活

六十八期生 久保まどか

この度は歴史ある同窓会報への執筆をお声がけいただきありがとうございます。私は二〇一六年からの六年間を東邦で過ごし、今春から神戸大学に進学致しました。今回は六年間の東邦生活を振り返らしていただきたいと思います。

中学時代は文化祭・体育祭・音楽祭・修学旅行など様々な行事がありました。体育祭で応援団をやらせていただくことやみんなで設計図から考えてジェットコースターを完成させた文化祭のことは今でも忘れられません。たくさん行事を通してクラスメートと絆を深め大切な思い出を作ることができました。

高校生になって私は野球部のマネージャーになりました。一年生の頃は大会や合宿が通常通

り行われていましたが、高一の冬にコロナが流行りはじめ全く部活をできない期間が長くありました。部活が大好きだった私はその期間が本当に辛くて寂しかったのを覚えています。しかしその期間があったからこそ再開した部活は今まで以上に一生懸命にそして楽しく行うことができました。野球には全く詳しくなくプレイヤーに誘われて入った野球部でしたが、野球部マネージャーとして過ごせた三年間は間違いなく私の宝物となりました。いつも笑わせてくれた部員や支えてくださった先生方には感謝しありません。

私達の代は、コロナが流行りはじめて多くの影響を受けてきました。学校は数ヶ月間休校と分散登校が続く、部活ができない期間もありましたし、高二のときは文化祭やスポーツデーも実施できませんでした。さらに私達は修学旅行が直前に中止となり代替行事ありませんでした。やりたいことが何もできないしみんなに会うこともできない。それでも受験はどんなに近付いていて勉強はしなければいけない。その状況が本当に辛くてなんで今流行るんだろうとずっと思っていました。でもその分多くのことを感じ深く考え、当たり前の日常のありがたみを改めて感じて私達は成長することができたとおもいます。ニュースなどで「今の学生はかわいそう、空白の数年間になった」というようなことを言っているのを見たことがあります。私はそれを見てすごく悔しく思いました。確かに行事はたくさん潰れ想像していた高校生活は送れなかったけれど、それでも私達ができること

を全力で楽しみ、休み時間に友達とくだらないことを話して笑い合い、たくさん楽しい時間を過ごしてきました。私達は最高の高校生活を送ったと自信を持って言うことができます。今の東邦生もまた、東邦生活のほとんどがコロナ禍となつていると思います。それでも今できることを最大限に考えみんなで大々さん思い出を作つて欲しいと思います。

私は六年間の東邦生活でかけがえのない仲間がたくさんできました。関西に引越して距離ができた今でも東邦で出会った友達に支えてもらっています。コロナがなかなか収束せず大変な状況ですが、皆が後悔しない楽しい日々を送れることを心から願っています。

東邦で学んだこと

六十八期生 仲村歩久翔

最近、二冊の本を読んだ。『実力も運のうち』という本と、『入新世の「資本論」』という本だ。一冊目はハーバード大学のマイケル・サンデル氏が執筆したもので、能力主義による強者の傲慢と弱者に対する偏見への批判を本旨とした本で、二冊目は東京大学の齋藤幸平氏による、行き過ぎた消費社会によって誘引されている環境破壊の解決策を模索する本である。この二つの作品には共通点があり、サンデル氏は市民社会における共通善の復権を、齋藤氏は地域住民達の共同管理による共有財である、「コモン」の復活を訴えており、ともに、社会全体に帰する

価値観や財産の重要性を主張している。

思い返すと、僕は六年間の東邦生活の中で、色々な経験をさせてもらった。中学三年間の音楽祭や、中三時のオーケストラ部、高三時の文化祭での有志合唱では指揮者を務めた。オーケストラ部ではホルンパートも担当し、また、高一時ではオーストラリア研修にも参加した。こうした経験は、東邦の中では当然のように与えられる選択のように感じられるかもしれないが、実際には貴重な経験である。また、僕たちは中学受験を突破して東邦に入ったのだから、このような経験が出来るのは自分の手で手に入れた権利のように勘違いしかねないが、実際は自分一人の手で成し遂げたわけではなく、周りの人達のサポートや、両親の経済的援助、運などが絡み合って与えられたものだという事を忘れてはならない。世の中には、我々よりも懸命な努力を重ねているのに、我々のような幸運や恵まれた環境を持ち合わせていない人々によって、社会的な尊厳を得られていない人々がいることを見過ごしてはならないのだ。

幸か不幸か、このような社会的な不平等等は、コロナ禍によって以前よりも目に見えるようになった。我々がパンデミックについて思い出として記憶していることの多くは、登校自粛や学校行事の中止、マスクでの学校生活などの、これまで青春とされていたものに対する制限かもしれないが、それはある意味で、我々が社会的に保護される対象であったことの証明でもある。エッセンシャルワーカーの人々は、社会を動かしていくのに必要不可欠な役割を担ってい

たのにも関わらず、その対人接触が多い仕事内容から、コロナ禍初期には忌避されていたことを忘れてはならない。また逆に、生業としていた仕事をいきなり不要不急とされて、社会参加から切り離されたり、偏見の目で見られたりした飲食やエンタメ、芸術業界の人々の存在にも目を向けるべきである。こういった人々が、懸命に働いていたのにも関わらず、社会的に不当に見られていたこと、もしくは働く機会さえ失ったことに比べると、我々が置かれた境遇はずっと幸運で、色々な人に支えられていたものだと思える。

また、パンデミックで隠れがちだが、環境破壊による問題も深刻な様相を呈している。世界全体で所得下位五〇%の人々は、世界全体の二酸化炭素の一〇%程度しか排出していないにも関わらず、気候変動の被害に晒されているのに対し、ずっと多くの負担を環境に与えている我々は、大雨や台風による損害を豊かなインフラによって免れている。さらに、人間の活動は他の生物にも影響を与えている。これは先述のオーストラリア研修において学んだことだが、石油製品の大量廃棄の問題は特に海洋生物に被害を及ぼしており、ビニール袋を飲み込んだウミガメが潜水出来なくなったり、プラスチック片を飲み込んだ魚が死んでしまったりしている。こういった問題は日本からは見えにくいものであり、直接的な被害が自分達に及びにくいことから、真剣に受け止めている人は少ないかもしれないが、確実に自分達も加害者として関わっている問題だと認識するべきだ。

ここまで述べた問題は、利己的な態度からは解決しない。特に、社会的にも経済的にも恵まれたボジションにいる我々は、その権利が当たり前のもので、自分の利益を維持するためのみに利用していくものなどと思わずに、積極的に、社会に対して利他的な精神を持つて向き合っていかなければならない。また、我々の世代は、パンデミックや社会的な連帯の危機、気候変動といった歴史的に見ても巨大な問題に直面しているが、むしろ若いうちにこういった問題に衝突したことを糧として、新しい視点からの議論を活発化させる役割を担っているだろう。東邦の創立者である額田晋氏の著作、『自然・生命・人間』の中には、以下のような言葉が残されている。

「われらは全人類のうちに生き
全人類のために生きてるのである

僕は東邦で学んだ経験を、自分の利益を拡大するためだけに使うのではなく、社会全体の善や環境のために役立てていきたい。そして、思いついた傲慢に飲み込まれることなく、他者への敬意を忘れることなく、自分の出来ることを追求していきたい。どのような立場にいる人も、同じ社会を支える一員であり、取り残されるべきではないのだから。

東邦中高六年間の思い出

六十八期生 朝日俊介

この度は同窓会会報の原稿の依頼をいただき、とても嬉しく思います。私は今年の春から早稲田大学へ進学をしました。六年間通っていた東邦中高と全く違う、大学の制度に少し困惑をしながらも、勉学と部活とで充実した日々を送っております。そのような日々の中、東邦中高の思い出を振り返ってみると、私の人生の中でかけがえのない、大切な思い出になっています。これから年齢を重ねて行っても、忘れることはないだろうな、と思います。

私は中学一年生から高校三年生まで部活ではハンドボール部を、委員会では体育委員を六年間続けました。委員会活動では体育の係だけでなく中学では体育祭の運営、高校ではスポーツデイの運営を主として活動しました。また体育祭では応援団長、スポーツデイでは実行委員長を務めさせていただき、大変なこともありましたがとても楽しい行事を取り組めたと思います。スポーツデイにおいてはコロナウイルスによる社会的状況の変化により高校二年時は中止、三年時には様々な規制のもと行わなければなりませんでしたが、しかし昼休みや放課後に集まり話し合いを重ね、先生方や沢山の部の協力のもと、無事遂行し終えることができました。共に協議をしてくれた先生方、体育委員の皆さんにも感謝しています。部活に関しては先輩の勧誘のもとハンドボール部に入部し、厳しく

てつらい面も多々ありました。ですが私の中高の生活の中で部活動は切っても切り離せない存在です。高校に上がって大学受験が控える中、文武両道で過ごすということは、正直に言って簡単なものではありませんでした。受験勉強のためという理由で高校では部活をやらないう人は多数いましたが私は部活をやっていたよかったです。高校の部活から自分の上達を感じています。高校の部活から自分の上達を感じることができ、毎日部活に没頭する日々はとても楽しい時間でした。しかし部活動もコロナウイルスの影響で通常の半分ほどしか練習ができない状況でした。目前の大会が学校内で感染者がでたために棄権せざるを得ない状況になった時は本当に悔しかったです。それでも良い結果は出せませんが最後の大会には無事出場でき、最後を締めくくることができました。

六十八期生はコロナウイルスの影響で修学旅行を筆頭に色々な行事が中止になってしまいました。だからこそ学校での普通の日々の生活が色濃く私の記憶の中に残っています。中高生の六年間は一生に一度しかない青春の思い出です。もし私がこれからの大学生活で何か壁に直面してしまったりとしても、この記憶を糧に乗り越えていきたいと思っています。また、これを読む皆さんには、コロナウイルスがおさまりつつある今の高校生活を大事に過ごしていけることを心から願っております。どうもありがとうございます。

◆卒業生

さまざまな年代、そしてさまざまな分野で活躍の卒業生の方々から玉稿が届いています。

四〇〇目

六十三期生 小林奈々美



虫の目、鳥の目、魚の目という言葉を知っていますか。

近いものを細かく見ることの出来る虫の目、高い場所から全体を見渡すことが出来る鳥の目、流れを感じることに出来る魚の目、この三つの目を持つことができれば物事をあらゆる視点からつかむことができ、人生においてよりよい答えを導くことができるというものですが、この言葉はかつて私が本校の高校生だった時に全校集会で松本校長先生が生徒に向けて話してくださいった内容でもあります。

楽しい東邦高校での三年間を過ごし、今後の大学生活に思いを馳せ、すっかり校長先生の話

も忘れてしまった頃に無事高校を卒業。大学へ進学し、教員になるため教職課程を履修することに。その課程を修了するにはもちろん四学年次に行く教育実習も欠かせません。当時の私としては、大学内で模擬授業を何回もやっておけば教育実習もなんとかなるだろうと勝手に思いこんでいましたが、いざ実習がはじまり、一クラス目の授業を行ったとき、それは単なる思い込みだったことに気づきました。生徒達のぼかーんとしつつも、一生懸命話しているからとアテなく聞いておいてあげるかといわんばかりの慈悲に満ちた顔は今でも覚えています。このときふと、虫の目、鳥の目、魚の目の言葉を思い出しました。いつも大学内で模擬授業は何度も行ってきましたが、その相手は同級生、つまり今まで散々生物を学んできた大学生でした。そんな授業は、もちろん中学生が理解するには難しく、教えたいことの重要点もわかりづらくなっていたのです。

この苦い経験を踏まえ、大学卒業を経て本校の教員となった今でも自分ならよくわかる、もしくはこれくらいならわかるだろうと思いつくのでつくるのではなく、生徒側が学ぶときの立場になる。また、その分野の全体像をはっきりさせて流れをつかむ、ということを念頭に授業をつくる姿勢は変えていません。そしてなにより私には、虫、鳥、魚の目だけではなく、当時の本校の先生方がどのような授業をしてきたかを見てきた「自分の目」も持っています。東邦中学校に入学した十年前、岡田先生担任のもと出会った会田君は非常勤講師として、名和君は実

習生として、今年本校に来る予定です。まさかこんな時が訪れるとは想像できませんでした。本校に教員として赴任してからまだまだ日は浅いですが、不思議な出会いに感謝しつつ、この四つの目を持って、今後もわかりやすい授業のため、また充実した学級経営のために日々頑張っていきたいと思えます。



小村先生へのお礼と東京湾へのお誘い

四十九期生 小澤 鷹 弥

自宅でごろごろしながらYouTubeを見ていたところ、突然お電話をいただき、原稿を書くことになりました。中学・高校と六年お世話になった小村先生も退職にあたって寄稿されているとのこと、大変ありがたいお話です。折角ですので、先生へのお礼を申し上げつつ、少し宣伝でもさせていただこうかと思えます。

中学の私は、休み時間と言えば図書室か教室で推理小説を読んでいる、本の虫でした。冬服のポケットは文庫本がびったり入る大きさなので、多いときには左右と内ポケットで合計六冊も文庫本を持ち歩いていました。一種の中二病でしょう。そしてあるとき、授業中にこっそり隠れて小説を読み、小村先生から大目玉を食らってしまったのです。そのとき小村先生に言われた言葉は、よく覚えています。

「お前は一瞬で俺の信頼を失ったぞ、取り戻すのにどれだけかかるのか」

自分は信頼されていたのかという驚きと、それを失ったことの悲しみ、そしてありきたりですが、強い後悔を感じました。その後、高校で担任だった小村先生から「お前にしか頼めない」という前置きつきで頼みごとをされたことは、信頼を取り戻したことを実感して涙が出るほど嬉しい出来事でした。

あのときの小村先生の歴史の授業で、信頼を裏切らないこと、誠実に取り組むことの大切さを学びました。大変感謝しております。学生のみなさんは、歴史の授業ではきちんと歴史を学びましょう。

さて、私は東邦中・高を卒業後、大学を経て、東京都で小学校教員をしていました。しかし、机に向かっていたら気が短さが性に合わず、数年で退職してしまいました。

その後は水族館など社会教育施設で学芸員をしています。現在は、船橋市にある「ふなばし三番瀬環境学習館」という施設で、来館者に自然観察の楽しさを知っていただく活動をしてい



東邦から車で三十分、東京湾で海を満喫！

ます。最近では、学校と連携して干潟からのオンライン授業を実践しています。
今の仕事では、海という環境の中で、私なりの「自然・生命・人間」観を追求しています。
東邦中学・高校から地理的に近く、施設には東邦大学の学生がアルバイトに来ていることもあり、紆余曲折を経てなぜか心身とも東邦に近づいています。
広報担当も兼任していますので、千葉県にお住まいの方はテレビや新聞などで施設や私をご覧いただくこともあるかもしれません。潮干狩りも楽しめます。ぜひ遊びに来て下さい。

西伊豆町でいちご農園を営んでいます。

四十五期生 松田 貴 宏



皆様、こんにちは。平成十一年三月に卒業しました松田貴宏です。卒業後、二浪して山口県下関市の独立行政法人水産大学校生物生産学科に進学、一留して卒業し、一年無職、その後静岡県立農林大学校養成部園芸学科に進学して、こちらはストレートに二年で卒業、一年間愛知県半田市の大きないちご農家でいちご栽培を教わり、平成二十二年に静岡県西伊豆町で独立開業しました。そして、本年五月二日に就農支援資金千八百万円の最後の返済が無事に終わりほっとしているところです。

静岡県は東京の市場では存在感があまりありませんが、いちご栽培の盛んなところです。ところが西伊豆町にはいちご農家が私しかいません。流通に載せるのも大変です。なので、もともと地場の小さな卸売り市場に直接持ち込んでいました。数年してその市場が店じまいをして、併せて多くの地元の小売店さんたちもやめてし

まうところが多くなり、販売が難しくなりました。そこへふるさと納税が始まり、なんとか息をつなぐことができました。

新型コロナウイルス感染症が広まったときには、細々と平行して行っていたいちご狩りに営業自粛要請があり、農業ではなく観光業として給付金をもらい切り抜けました。また、青年会議所の仲間からの注文を受けて、県内各地に配達に回りました。信用金庫の友達が言っていました、「もうダメだ」と言えた事業者は生き残っているそうです。もうダメだと助けを求めたら、本当に多くの方がいちごを買ってくれたり店舗や工場で販売する機会を作ってくれたりして、なんとか潰れずに済みました。

昨年に町会議員になり町との契約ができなくなったのでふるさと納税の出品はできなくなりましたが、代わりにコロナ禍が始まる直前に契約した大手の旅行サイトからの個人のいちご狩りのお客様が伸びて、十二年目にして一番の売上が立つ見込です。

県や商工会から派遣された中小企業診断士には、よく経営計画をしっかりと作るように言われていました。事業の規模や環境にもよると思いますが、計画を立てるより刻々と変わる状況に柔軟に対応できるかが、生き残りの鍵のような気がします。

令和二年に町が農林水産物直売所を開設しました。町の商工係の方が主導で、農林水産係は乗り気ではなかったのですが、なんだかんだで出来上がってしまいました。これはひどいと思

に十一人立候補し、百四十七票十番目で当選しました。

町会議員一年目は、主に財政の勉強をしていました。青年会議所の繋がりで、当選する直前にできた財政研究会地方議員連盟というところに入りました。オンラインで月に二回持ち寄った企画で勉強会を開いています。財政研究会という名前ですが、財政に限らず外部の講師を依頼したりメンバーが講師になったりして地方自治体の様々な課題にアプローチしています。百八十人ほどの団体で、今年から副代表になりました。自由経済主義多めなので不偏とは言いませんが、不党なのは確かで、実は特定の政党の下部組織だったとか、政党を目指しているとかはないです。近頃は再選を目指すメンバーや、縁のあった初選挙の候補者の応援に力を入れています。これからは偉い人の為書きよりも集まった多くの地方議員が選挙事務所の華になってくると思います。

また、滋賀県大津市に市町村や市町村議会がお金を出し合って作った全国市町村国際文化研修所というところがあって、ここにもよく行きます。一流の講師の授業を安価に受けられるだけでなく、全国から集まった地方議員同士で情報を交換しネットワークを作ることにも目的です。オンラインでしか会ったことがない人にもリアルで会えることがあります。

議員報酬は西伊豆町の場合月額十八万七千円です。ボーナスを含めると年間三百万円弱になります。他に、本会議などで呼び出されたときだけバス代が実費でもらえます。政務活動費な

どはありません。議会図書室といわれるロッカーには古い本しかなく、町立図書館もあまり本がなく他館からの取り寄せは時間がかかるのでネットで購入しがちで書籍費もかさみます。研修に行く費用や、本業のいちご栽培に手が回らなくなる部分の減収を考えると、三百万円ではなかなか厳しいのが実情です。それでも、今のうちに基礎を身につけないと町議としてまもな仕事はできないので、両親の助けを借りながら何とかやっています。

昨年度は財政の勉強をしたと書きました。財政状況資料集という各自自治体が出している資料を読むのに苦手意識がなくなっただけで、引き続き勉強をしないとけません。それとは別に、法律の勉強を始めました。まずは地方自治法です。本来附属機関として条例で設置しなければならぬものが要綱で町長の私的諮問機関になっていたり、なおかつその委員に報酬が出ていたり。そういう必要最低限の穴を埋められるようにしないとイケません。

地方議員のイメージについていろいろあると思います。



ます。どんな地方議員でも住民のみなさんの地方自治の権利を守るためにいます。多くの議会が必要とされているのは、地方自治の基本を知っている人です。そんなに難しい話ではありません。よかったら地元の議会をのぞいてみて下さい。議員に声をかけてみて下さい。興味を持ったなら、私たちの仲間になってくれると嬉しいです。きっと日本は地方から変わると思っています。

『卒業して二十五年経ち』

四十三期生 長嶋雄樹

「息子が東邦中学へ入学することになったんです！」

入学式の日、私が中学時代陸上部でお世話になった御喜先生にご報告。お祝いの言葉とともに同窓会会報へお声がけ頂きました四十三期の長嶋雄樹と申します。

息子が小学校高学年に上がる時に我が家では「公立中学に行くのか、受験して私立中学を目指すのか」という話になりました。私は妻から相談を受けたとき、即答で「受験させたい」と話したことを覚えています。

私が小学生の頃は、父が私立中学出身者・兄が東邦高校に在学という環境もあり何の志もありません。ま流れに任せて進学塾に通っていました。受験勉強を始めた当初は、楽しんで勉強していましたが、六年生の頃には、塾に行って長時間拘束されることが苦痛になり、当時唯一のモチ

ペーシオンは、「中高一貫校に入って高校受験をしないこと」になっていた気がします。

結果、運良く東邦中学に入れていただけのことになったのですが、入学式の日も「大きな希望と期待を胸に！」という感じでもなく。。。

受験勉強の反動もあり、中学入ったら遊ぶ！という気持ちが強かったので「どんな子達がいるのかなー？」「勉強ばっかりしてきた子達だろうから、スポーツや遊びなんかできないんだろーな」などと考えていました。入学して即、その考えは吹き飛ばされました。速く走ることには自信があったので陸上部に入部しましたが、先輩方はもちろんのこと同級生にも全く歯が立たず。自分より足の速い人が、こんなにいるんだ。と心底驚きましたが中高六年間東邦陸上部、最高に楽しい部活でした！

クラスにもいろんな子がいて、野球をやれば、見たこともないような豪速球を投げる子がいる。スキーに行けばプロ級の滑りで、見ず知らずの大人達を驚かせる子もいる。授業でマツト運動になれば、ジャニーズばりのバック転ができる子もいました。

学年が上がるごとにクラス替えもあり、友達も増え、当時は学内に学生寮もあったので寮生の友達や先輩と交流し、当時知らなかった遊びも色々教えてもらえました。

驚いたのは、もちろん学業も。小学生時代の栄光は儼く散りました。ただ成績優秀者も個性豊かなおもしろい子達が多く、いわゆる「ガリ勉」ではなかったように思います。

入学してからは身の程を知らされることばか

りでしたが、全てのこと新鮮で、毎日学校に行くのが楽しみでした。こうした充実の（？）学生生活を送れたのは、お世話になった全ての先生から優しく、また時に厳しく指導していただいたおかげです。「普段はゆるく、でも締めるところは締める」そんな校風だと勝手に解釈していました。先生方は、生徒一人一人を本当によく見てくれていて、廊下や職員室に呼ばれ個別に指導していただくこともしばしば、時には校長室にまでお邪魔して校長先生直々にお言葉を頂戴したこともありました。ですがそういった指導の後、いつも笑顔で接してもらえました。

お世話になっていた養護教諭の先生が、不幸にも事故でお亡くなりになり、私がひどく落ち込んでいた時、先生方が代わる代わる励ましに来てくださって救われたことも強く記憶に残っています。

卒業してからも（学内での成績はさておき）「東邦出身」というだけで、大学でも、歯科医師になり社会に出た今でも、一目置いてもらえるのは本当にありがたいことです。ご指導頂いたこと、学生生活での思い出東邦で出会った今でも仲良くさせてもらっている友人達やその家族は、私の宝だと思っています。

そういった私の経験から、「息子にも広い世界を見てほしい」という想いがあり、中学受験を勧める動機になりました。ただ親の立場から見ると中学受験は、想像以上に過酷でした。

十歳ちょっとの子供に、やりたい遊びや習い事を我慢させてまで勉強させることが本当に正



東邦の仲間たち



東邦中入学式（左 私 右 息子）

しいのか思い悩んだことも多々ありましたが、途中で辞めることは、一番本人のためにならないという想いで、腐った尻を叩き続けました。

息子を一番近くで見ていた妻や、兄の受験のために自分たちまでやりたいことを我慢してきた娘（妹）達も最後まで頑張ってくれました。自分の時もこんなに大変だったのかと両親に改めて感謝するいい機会にもなりました。

合格の知らせを頂き、息子が「途中で諦めないうで、最後まで頑張って本当に良かった」と言っていたことで、家族全員が報われた気持ちになりました。半年前まで「私は受験したくないな」と言っていた小学校四年生の娘も今では自分から「東邦に入りたい!」と言っています。

もちろん入学がゴールではないのでこれからの中高六年間で私以上のいい経験をして一生付き合っていけるような友達に出会ってくれることを願っています。

受験の付き添いや入学式で、久しぶりに大久保の街を訪れ三十年前と同じ詰め襟を自分の息子が喜んで着ている姿を見て懐かしい気持ちになり、とりとめのない話を書きました。

私が卒業してから四半世紀を経て、さらに魅力的になられた東邦大学付属東邦中学校・高等学校様！再び！お世話になります！



十年前、あの頃

三十六期生 坂田直昭

一九九〇年卒の坂田直昭と申します。私は母校を卒業後、宮城県の大学に入学し、卒業後は医師兼研究者として今日まで働いております。

さて話は十年前に遡ります。当時私は、出身大学に勤務する外科医師でした。それは三月ながらまだまだ寒さの残るある日のこと、その日は東京に出張することになっていました。午前中に仙台駅を発ち、目的地である新宿駅に着いたのが午後二時過ぎでした。宿泊予定のホテルに到着し、ひと息入れて出発しようとしたその時でした。突然大きな揺れを感じました。これまでに経験したことがない、というのは誇張ですが、それでも立っていることが難しいと感じた程には大きな揺れでした。ここは七階だし、特に揺れが大きいのだろう、この時は楽観的にそう考えました。揺れが止まったことを確認してテレビをつけましたが何も映りませんでした。これは何か起きたか、と部屋を出ました。エレベーターも停止していたため階段で一階まで降り、ホテルの外に出ました。新宿駅前は何でござった返していました。徐に携帯電話の画面を見て愕然としました。

「宮城県で震度七の地震」

のちに東日本大震災と命名される、あの未曾有の大震災です。今回の寄稿文では、当時私ができるように過ごしたのかを記憶を頼りに書き遺したいと思います。

真つ先に私がしたことは妻の携帯電話への連絡でした。しかし、電話はなかなかつながらず三十分以上が経過しました。頼む、無事でいてくれ。そう願いを込めてリダイヤルを続け、やつと聴き慣れた声を受話器の向こうから届きました。

「大丈夫？子供たちは無事なの？」

「私も（下の子の名前）も無事よ。（上の子の名前）もピックアップできたわ。今三人でマンションにいる。部屋も家具が動きはしたけどそれほどめっちゃくちゃになっていない。ただ、停電になって本当に不安…」

「何とかして仙台に戻るから。子供たちを宜しくね」

そして、荷物をまとめて新宿駅に向かいましたが、電車はストップし、東北新幹線も不通になっていることを駅員の方から聞きました。高速バス乗り場に行きましたが、仙台に向かうバスも止めているとのことでした。遂方に暮れ、ホテルに戻り情報の収集に努めました。その最中、さらに追い討ちをかけるニュースを目にしました。

「三陸海岸に大津波が来襲、被害甚大、犠牲者多数。仙台空港も被害か」

空路も死に、いよいよ帰路の手立てがなくなりました。大きな余震が続く中、ようやく職場と連絡が取れました。話し相手は同期の同僚でした。

「おおセンチかい、そちらは無事かい」

「こっちは大丈夫だけど仙台に戻れそうもな

い。今どんな塩梅？」

「バタバタしてるよ。何人か救急に出張って被災者の対応をしている。医局（医師の詰所）も大破したので、今病棟に本部の機能を移しているよ」

「そうか…力になれずすまない。ところで明日、石巻のXXX（医療機関）で勤務なんだけに行けそうにない」

「ああ、あそこ、津波で流されちゃった」

夜になりました。あれから家族には一向に連絡が取れません。テレビの向こうで気仙沼港が中継で映りました。暗がりの海に流された家財からでしょうが、多くの火柱が立ち上っていました。ふと、妻の顔が脳裏をよぎりました。今俺が明るい部屋でこうしてテレビを見ている中、家族は余震と暗闇の中、怯えながら過ごしているのだろうか。ベッドの上で横になり、そしていつしか朝を迎えました。

翌日。ホテルを出てすぐに新宿駅に行きました。しかし、鉄道も、高速バスもいつ動くかは分からないという返事を得るのみで徒労に終わり、そのまま二日ほど経過しました。そして震災発生後三日、このままでは埒が明かないと判断し、千葉の実家に行き体制を整えることにしました。実家に着くや否や職場から連絡が入りました。研究をともに進めていた大学院生からでした。

「サカタ先生、ご無事ですか」

「僕は大丈夫だけど、仙台に戻る術が無くてね。遂方に暮れているのだよ」

「それならいい情報があります…今回の地震で太平洋側はひどいことになっていますが、日本海側は比較的被害は少ないです。山形空港は稼働しているようですのでひとまず山形に行き、それから陸路で仙台に向かうのはいかがでしょうか」

「それは名案だ。明日早速動いてみるよ」

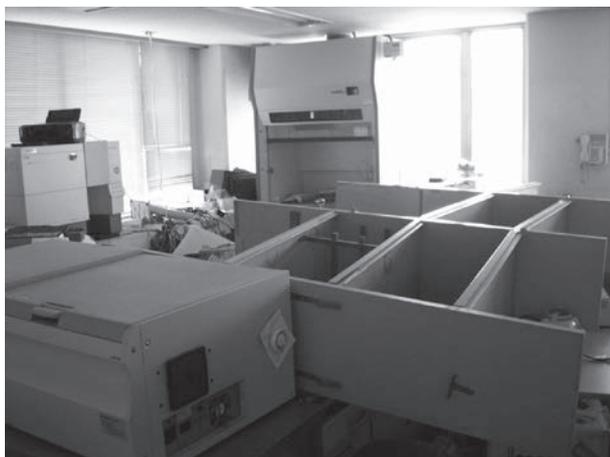
その翌日。私は両親からもらった食料を背に羽田空港に向かいました。山形空港行きの便のキャンセル待ちのためです。しかし、同じことを考える人は数多く、その日は搭乗することができずに空港内のホテルで一泊しました。その次の日も朝からキャンセル待ちをし、結局搭乗できたのがその日の午後で、山形には十五時ごろ、そして十六時過ぎには仙台市内に到着しました。その足で真つ先に我が家に向かい、そして実に五日ぶりの家族との再会を果たしたのでした。妻とその時に何を語ったかは忘れてしまいましたが、とにかく安堵したことだけははっきりと覚えております。仙台に戻った翌日、私は大破したという医局に向かいました。医局には実験室があり、長年の研究生活で培った機器やサンプルがあります。医局に入り唾然としました。医局、実験室もろとも壊滅的に大破しており、サンプルどころの話ではありません。一体これから研究をどうして続けていこう。呆然としつつ、私物を回収し医局を後にしたのでした。

さて、無事家族と再会でき、めでたしめでたし…では話は終わりません。被災の後にも生活

があります。その後まもなく電気は復旧したのですが、ガスはしばらく使えず、風呂もままならず、冷たい濡れタオルで身を清めるといった日々が続きました。多くのスーパーマーケットや食事処が文字通り物理的に潰れたため、炊き出しや出店（でみせ）の情報をもとに仕事の合間を縫って買い出しに行き食料を確保する、そのような生活が続きました。そんなある日のこと、街中にある馴染みのラーメン屋が震災早々に店を開けることを知り、家族を連れ立ってラーメンを食べに行きました。この店は仙台で初めて家系ラーメンを広めた店で、とんこつ醤油のこってりスープがもちもちした太麺によく絡み、海苔とネギとほうれん草が味にアクセントを加えている絶品のラーメンを提供しておりました。この日はラーメン一品のみの提供でしたが、久しぶりのラーメンに心が踊りました。一口すすり、そして妻と顔を見合わせました。

—おいしいね。

日頃食べてきた変わらぬ味であることは間違いありませんが、何故でしょう、この時の一杯はこれまでの人生を振り返ってみても比べるものがない特別なものでした。恐らくは未曾有の災害の中、家族が誰一人欠けることがなくこうして顔を合わせてラーメンをすすることができるといふ、ひとときの安堵がこの一杯を最高のものにしたのでしょう。この一杯は同時に、私に新たな活力を与えたようでした。なかに、失ったものはこれから取り戻していけばいいさ。頭と腕が動くならどうとでもなる—なぜか一瞬にしてそんな悟りのような心持ちになったのでし



震災直後の実験室

た。かくして私は、医師としての業務に加え、実験のできる場所を探し、大学院生とともに研究を再開しました。その間、大破した実験室の復旧にも力を注ぎました。事態は徐々に好転し、国の震災支援も手伝って、震災後半年には実験室が復旧し、少しずつ元の生活に戻って行っただけでした。それは苦しいながらも、本当に充実した日々でした。

ところで私は今、福岡県で勤務をしております。学生への研究指導や講義（かたわら）の傍、地域医療に奉職すべく、コロナ感染者収容施設やコロナワクチン接種への派遣医師としても働いております。単身赴任ですので年に数回、家族に会うために仙台に戻ります。ある晴れた日、搭乗機の窓から仙台空港を見下ろしました。十年前に津波の被害にあったところに少しずつですが、草木や田畑の緑が戻っていました。土壌が完全に死んでいなかったことに喜びを抱きつつ、月日の流れの速さを改めて感じました。あの頃、まだ小さかった息子たちはそれぞれ大学生、高校生になりましたが、昨今のコロナ禍の影響もあり、特に上の子は学友との知己を得ることがなかなか難しくなっているようです。在校生の皆さんもコロナ禍の影響を少なからず受け、大変なことと存じます。将来、今のご苦労をお子さんに笑って語ることができるような、そんな明るい未来が皆さんに訪れることを切に祈ります。

下村校長先生と東邦中学校高校の思い出

第二十八期生 河 合 紫 織

同窓会事務局の御喜先生から同窓会誌に載せる原稿の事で依頼を頂きました。恐縮しながら下村元校長先生のお話をしましたところ、大変話が盛り上がり下村先生にお世話になった世代の同窓生の方々も思い出深いのではないかと思いますのでその話を原稿にして下さいと仰っていました。

ちょうどNHKの朝の連続ドラマが come come every body という女性の三世代百年に渡るドラマを放送していた時期でありました。二〇二二年秋から二〇二二年春まで放送されていましたので、ご覧になっていた方々も多いのではないかと思います。その三世代に共通していたのがラジオ英会話でした。英会話を通じて運命が変わるといいますか、特に現代に繋がる



下村校長先生 (卒業アルバムより)

孫のヒナタは学校の成績は今一つどころか、夏休みの宿題も自分一人では出来ず友達に手伝ってなんとか提出し、それを毎年繰り返す主人公でしたが、ラジオ英会話で英語が出来るようになって人生を切り開いていったというストーリー展開で、丁度世代的にも東邦二十期後半生から三十期前半の年代にあたります。下村先生が校長先生の時代の同窓生でしたらNHKラジオ英会話を良く覚えて下さっていると思いますが、下村先生が毎日聞いていたところ、これは英語学習に大変良いものだと思われたから生徒全員が聞いて学習する機会を設けるべきとの事で毎日放送時刻に、東邦の生徒が全員聴講出来るように時間割りを定めたのです。数学、国語、社会、理科どの時間の授業であろうとも、定刻にはラジオ英会話を学習した時代でした。当初、私は戸惑っていました。ラジオ英会話を聴く習慣もありませんでしたし、中学一年生で初めて英語を勉強し教科書と全く異なるカリキュラム構成のラジオ英会話に???状態でした。慣れない電車通学で疲れも相当ある中で、何か負担が更に増しているような気すらしていました。各教科の先生方はご自分の教科時間が二十分程短くなるので、授業に苦慮されている様子の時もあり五分位ラジオ英会話の聴講が遅れるような時もあったと記憶しています。先生方の中でも賛否はおありになったのかも知れません。その中で下村校長先生は毎時間必ず一斉放送をお聞きになっているとのことでした。通学疲れて、ラジオ英会話の時間はお休み時間かの如くボーと聴いていた私の直ぐ後ろに毎回テ

ストは百点という、中高の六年間通して友人となるYさんが嬉々として楽しそうに耳を傾けて、番組の最後に流れる今月の英語の歌を歌っていました。「私、この毎月の英語の歌が好きなんだよね」と言って、普段か細い声の彼女が、その英語の歌を歌う時は朗々と楽しそうに大きな声だったので、私も試しに歌ってみると「楽しい！」と思えるようになり、それからはラジオ英会話に集中するようになりました。今でも女性講師のマーシャ・クラツカワさんの声や発音が記憶に残っています。一年間でしたが大学の英文科に通った私の原点かも知れません。ラジオ英会話は継続すると確かに効果はあると思います。

中学校一貫の良いところは一生涯の友人が作れるところではないかと思えます。ラジオ英会話で思い出しましたが、Y女士とは生涯の友となりました。中一の時、苗字のあいさとお順で机が決められていた私のすぐ後ろがYさんでした。Yさんは百点を取れなかった時にどうして百点を取れなかったのかとシクシク泣いて、私を驚かせたり、中学一年生は一年間白羽寮の食堂で担任の先生とクラス全員が給食を摂るようにとの決まりで、これも下村校長先生の方針とのことだったと思います。四〜五人が一つのテーブルで給食を食べ、そのメンバーは定席ではなくシャッフルされるようになっており、自然と生徒同士が顔見知りになっていくという目的があったようでした。ある日担任の先生が、今日はココにしようかなと仰りながら、私のテーブルの席に着きました。担任の先生はホス

トとして、テーブル間を移動し慣れない生徒同士の紹介をして下さっていました。例えば〇〇君は沖繩から来て寮に入っているのよね、とか、Yさんはお医者さんになるのよねとか、その私の生涯の友になるYさんは中学一年の時から将来は医師と決めていて、その給食の時に担任の田神先生から聞いた私は「中一で将来の職業を決める人がいるの!？」と非常に驚いたものでした。Yさんには驚かされることばかりでした。今では早期の英語教育が浸透している日本ですが、当時はまだ珍しく小学校から英語を習っていたY女史は中学生までに英検二級をとると頑張っていました。それが達成されると通塾の授業料がそれ以降無料になるからご両親の負担を減らしたいとの事でした。三人兄弟で全員私学、三兄弟共に医師希望で、ご両親それぞれの母校の私学医科大学を目指して、そのため節約できることはしていると話されていました。中学三年の時に英検二級を見事にとり、その後は念願のお母様の母校医科大学に進学し立派なお医者さんとして働かれています。三代百年続いた女医さん家系でお父様も医師で開業されていました。御兄弟もお医者さんとなりましたが、授業参観にいらっしゃるYさんのお母様は髪をキュと纏められて授業だけ参観するとサツと開業されているご自宅の医院にお帰りになつて診療されていたと聞きました。私の母やその他のお母様方が授業参観の後に茶話会や食事会をして帰宅なさるのは雰囲気が違うのは中学生の私でも良くわかりました。ご自宅に送られてくるミキモトのカタログを見てご家族全

員で「誰がこんなに高価な物を買えるんだらうね?」と言っていたY家。医学部附属というスペシャリティを持っていて東邦ですが、堅実な家庭の師弟が通う学校の雰囲気がありました。下村校長先生の方針でもあったのでしょうか? 普段とても堅実なのですが、アツと驚くような豪華なイベントもありました。今から考えますと相当豪華なのですが高校の修学旅行が客船を貸し切りにして行うという時代に丁度当たりました。

客船は商船三井と決まっていたのですが目的地は生徒が選べるという事で、クラスごとに希望を出して多数決で決めていました。私の学年は北海道となりました。目的地の北海道に上陸したのは数時間、五月でしたが雨が降るなかで寒かったのを覚えています。賛否両論あると思いますが、非常に印象深い修学旅行と言う点では皆さん同じ思いなのではないでしょうか。

目的地のために行くというより船旅をするのが目的で、船上から見た無数の星空の美しさや夕日が水平線に沈む息を呑む美しさを覚えていきます。後年、同窓会があった時に、絶対にもう一度船旅をしたいと言う人がいて、私も同じ思いでおります。まさに経験はプライスレス。一流船会社の客船を貸切にするのですから幾ら費用が掛かったのか? 当時の事情を知る先生がいらしたら教えて頂きたいです。生徒を乗せる船などの交通手段にはお金を節約してはいけないという事が分かっていらした選択だったのかも



フェリー修学旅行 (卒業アルバムより)

しれません。

歯に衣着せぬご発言が多かった下村校長先生でしたが、ユーモラスに仰るのでPTA総会は笑いの渦だったと聞いております。父兄からも慕われていた下村校長先生。私の母が、紫織の学校の校長先生は面白い先生だと言って授業参観後のPTA総会を楽しみにしていたことを思い出します。あまり親孝行出来ていない私ですが、子供の学校の行事を父や母が楽しみとしていてくれたのだと思ひ出しますと、あれは親孝行といえるのかも知れないと思ひ至り、東邦に通わせて頂けたことに感謝いたしました。

この原稿を書いている二〇二二年五月現在は、外交的にはロシア・ウクライナ戦争の真ただ中で、日本の地理的な危うさも原因とされ米ドル・円は二十年ぶりに百三十円を超えています。

私が高校生の際に台湾から日本に帰化した男

子が転入してきたのを思い出します。一九九九年の香港返還を懸念して、北アメリカに日本にするか迷ったが日本に一家で移住する事にしたと言っていました。K君は転入早々に学年一番の成績を取っていました。英語は勿論数学も学年一番。数学の何が難しいか？問題の日本語を読むのが難しいと言っていたK君。ほんやりと香港返還…、と思った私でも、連日のウクライナの町の破壊されていく状況には自国の心配をしないわけにはいきません。同じ思いの人も多くいらつしゃると思います。丁度時期と同じくしてイーロン・マスク氏が日本の少子化と将来についての懸念をツイートしたばかりです。優秀で真面目な日本人の将来を心配している。

そういえば毎年のノーベル賞受賞式を見るといかに日本人の受賞者が多いか、アジア圏では突出していると思いませんか？研究者の世界で英語圏でないハンディをもつとせよ、ほぼ毎年のように受賞しています。テスラ社のEV電池をパナソニックに指名したマスク氏が心配している日本の少子化問題。まさに内憂外患の状況というのでしょうか？日本がどうなっていくのかと心配は尽きませんが、どんな状況でも最後の最後まであきらめてはいけなくと高校生の時に生物の先生から言われた授業を思い出します。何十年と経ても、思い出すのは中高の時の体験や教えであるとは！なんと重要な時期だったのでしょか！

二〇二二年四月にiPS細胞で視力回復のニュースがありました。ほぼ失明状態の人が

○：六まで視力回復したとありました。当事者の方が「見えるってこういうことなんだ！」と嬉しそうに話されていました。糖尿病やパーキンソン病は七人に治療を行い経過観察中。今年中にがんや心不全の治療に応用し、将来的には歯や皮膚の再生にも応用したいとのニュースで、世界中の人を幸せにするニュースに日本人として誇らしく、まさに、ちむどんどんするニュースでした。ちむどんどん？と思われた方は今季のNHKの朝ドラマをご覧ください。年をとった人って、なんで皆同じようにNHKの朝ドラマを見ているんだろう？と中高校生の時に思ったものでした。(苦笑)

異端児の野球人生

第二十四期生 浅田 和夫

四月初旬、鈴木C（鈴木修先生）から電話が入った。私と同窓会会報の寄稿などともない、断ろうと思ったが「じゃあ頼むよ！宜しく！」と明るく言ってくれてしまった。

『東邦4753同期会』という会がある。昭和四十七年に中学に入学、昭和五十三年に高校を卒業、その間に在籍した四クラス約百九十人の会である。鈴木Cの提案で細谷真也が主催し、二〇一五年までに六回開催している。

中学の入試日は雪の降る寒い日だった。映画『八甲田山』や『二百三高地』を観ると、その日や中学時代を思いだす。雪、木造の馬小屋(教室)、軍服(蛇腹詰襟学ラン)、坊主頭(五部刈



2015年9月26日 第6回東邦4753同期会



2003年5月17日 小川弘光先生退職記念 第2回東邦4753同期会

りが義務)・・・明治時代かよ。校歌の歌詞に大スター天地真理があったのには驚いたが、天地真理を知らない同級生がいたのにはもっと驚いた。

一年霜鳥ルーム、二年小川ルーム、三年泉東作ルームと進んだ。

『新世界より』を聞くと、中一の九十九里オリエンテーションで、とうさく(泉東作先生)に教わった『家路』♪遠き山に日は落ちて♪を思い出す。

夏は馬小屋の窓を開けるので、音楽室から授業の歌声が聞こえてきた。♪遙かな尾瀬♪、へいさん(高間平三先生)が「尾瀬か、良いなあ、行きたいなあ」としみじみ仰った。一度は行きたいと思いつながら約五十年が過ぎた。スポーツが好きで、霜鳥先生の野球部やガッツ(小川弘光先生)の卓球部に顔を出した。離れの卓球室でガッツとやるのが楽しかった。とうさくの剣道の授業も面白かったが、防具の臭いには参った。

中二の夏休みに新校舎へ引越した。馬小屋は一年と一学期だったが、中庭の大きな石や、離れの便所、瓦屋根、白い窓枠など、のどかな風景が記憶に残っている。

中三の夏休み前に山下茂伸が「高校野球やろうぜ!」と言ってきた。中学生で高校野球?と思ったが、この一言が私の人生の転機となった。高校卒業後も草野球はもちろん、息子が小一で入った少年野球チームの監督もやった。そのチームは今、私が代表、息子が監督、小一の孫が選手となっている。

野球部入部には、お袋は猛反対したが、泣いて頼んだ。じつと聞いていた親父が「やるなら最後までやりなさい」と言ってくれた。

中三の夏休みから高校野球部に参加、炎天下での練習は水も飲めず苦しかったが、憧れの高校野球にやりがいを感じた。グラウンドは大学と共有、部室は奥の草むらにあり、分厚いコンクリに錆びた鉄の扉、戦時中の防空壕だった。

高校受験は、「全員高校に入学できる」と聞いていたので、答案用紙には名前だけ書いた記憶がある。

一年小川ルーム、二年鈴木Cルーム、三年小野ルームと進んだ。当時、先生のビンタは当たり前だったが、私の場合は往復ビンタ十数発に



1976年4月 高校2年 大学球場 (左:浅田 右:山下)

蹴り数発、数えられない程の新記録だった。

高二のクラス替えは、二階の連絡通路に八クラスの名簿が張り出された。どこを探しても私の名前がない。牧野忠義先生が通ったので聞くと「ああ、君のは四階(二年生)だ」と言っていて、ニヤツとした。咄嗟のジョークには感心した。私は、いじけて野球部の部室にいと、吉江裕晴と萩原広が走ってきて「浅田!ガッツと鈴木Cがジャンケンして鈴木Cが負けたよ。だから俺たちと同じC組になったよ」となんだか嬉しそうに言った。決め方が悪いだろ、と思ったがホッとした。(事實は書き忘れとの事)

鈴木Cは当時二十九歳、「覚悟をもって担任を受けた」と後日談があったが、その悪かった『二年C組』を見事にまとめて下さり、非常に楽しい学校生活となった。卒業後すぐにそのクラス会が行われ、コロナ前まで隔年で続けている。

野球部では、高一でライト、高二でショート、高三ではピッチャーだった。

高二になって遊びが面白くなり、親に「勉強するから野球部辞める」と言うと、お袋は喜んだが、親父は「最後までやると約束しただろ」と烈火のごとく怒られた。親父は高三の十二月に亡くなった。小野美紀先生とクラスメイトが葬儀に参列してくれた。

高二の夏、野球部では、いよいよ最上級生で天下になる。グラウンドの近くで遊んでいると、後輩が来て、「浅田先輩がキャプテンになりました」と冗談みたいな事を言う。理由は「遊ぶから」という事なので「不純だろ」とも思った



1977年7月15日 開会式（県営球場）

が、その後確かに責任感が出てきて練習も真面目にやった。冬場も帰宅してからも毎日のように素振りをして、遊びとは無縁になった。春になると急にボールが飛ぶようになり四番に抜擢された。

高三の六月初旬、夏季大会まで一ヶ月半。百六十五cmの体が悲鳴を上げたのか、練習試合で右肩を壊した。力が入らずだらんとしたので、すぐに医者に行くと全治一ヶ月、三角巾で固定した。大会に間に合うか心配だったが、できる限りの練習を続けた。

昭和五十二年六月三十日、参加百三校の抽選会が行われた。初戦は市川東、学校も野球部もできたてだった。体育の黒岩哲雄先生が、車で

偵察に連れて行って下さった。市川東は田んぼの真ん中にあり、グラウンドでならたらと練習していた。

私は大会直前に復帰、右肩は驚くほど軽く調子良かった。

七月十九日、初戦の市川東戦。ブラバンに応援団、団旗も高々と掲げられ、一年生は初戦は全員応援、同級生も多数来てくれて応援席は埋まった。五回コールド十三対〇で勝ち、参考記録ながらノーヒットノーランのおまけもついた。十年ぶりの初戦突破。東邦の勝利は千葉日報に大きく出た。朝日新聞の全国版にも載った。

七月二十二日、二回戦の行徳戦。六回コールド、十七対二で勝ち、茂呂一夫が一試合六盗塁の記録を達成した。私は千葉日報のインタビューを受け、翌日の新聞各紙も東邦の躍進を伝えた。

登校すると、知らない方からも声を掛けられるなど、人生で最高のひと時だった。浮かれて気の緩みで事故を起こした。昼休みのソフトボールによばれて、転んで右手薬指を打撲、痛みとともにパンパンに腫れた。投球する右手の薬指である。お袋がシップ薬を作って処置してくれたが、どうにもならなかった。

七月二十四日、三回戦の印旛戦に臨んだ。野球部OBも多数来て下さり、応援席は真っ白で盛り上がった。しかし相手は強く、打ち込まれた。指がまともでも打たれただろう。二年生投手は大会屈指で百四十キロ超え、未体験のスピードでも足も出なかった。当時は、百四十キロ超えの投手は稀だった。体力不足か寝不足

か、回を追うごとにマウンドは暑く苦しくなってきた。見上げた太陽は真っ白に見え「もうだめなのかな」と弱気になった。結局五回しか持たず、マウンドは後輩の鈴木義範に譲った。〇対九と散々な結果となり、皆に申し訳ない気持ちでいっぱいだった。相手の校歌を聞いて礼をして、きちんと負けた。「いつかその日が来る、その日まで全力でやろう」と一年間覚悟していたが、泣けた、大声で泣いた。インタビューにも応えられなかった。翌日の千葉日報には『進学校とスポーツの壁』という記事が載った。

辛いことがあると、最後のマウンドで見上げた太陽を思い出して乗り越えてきた。私の人生には常に野球がある。

夏の大会が終わって解放され、学校にはほとんど行かず遊んだ。受験勉強の邪魔をしないように、と都合よく考えていたが、卒業できないのでは？と心配になり、担任の小野美紀先生を訪ねた。「お前だけは必ず卒業させる！」と言われ、何はともあれホッとした。東邦と帝京から大学野球の誘いがあったが、私の競技野球はあの日で終わっていた。十二月に親父が亡くなり辛い時期でもあった。

東邦の先生方は、常に愛情を持って接して下さった。卒業後もお付き合い頂き感謝致します。

高校卒業後は、よく働き、よく飲み、ゴルフに麻雀、日曜日は草野球をした。

卒業五年後くらいから、東邦高校卒というところ「すごいですねえ！」という反応が返ってきて気恥ずかしかった。私の時の中学入試ランクはBだった。鈴木Cも「教師は殆ど同じなんだか

ら、生徒が違うんだよ」と笑った。
三十歳で結婚し一男一女を授かった。
息子が小一で野球を始め、私はまた野球漬けの日々となった。中学で硬式野球をやり、東海大浦安高校へと進んだ。

高校三年（平成十九年）、千葉県夏季大会で背番号9を貰った。五回戦で春の甲子園出場の成田高校に延長で勝ち、準々決勝も延長で逆転サヨナラ勝ちしたが、そこまでだった。千葉県ベスト4。仕事そっちのけで応援したが甲子園は遠かった。一つ後輩の西野真弘君がオリックスで頑張っている。ロッテ唐川投手、巨人菅野投手、S B中村選手などの対戦が良い思い出になった。

四十三歳で衆議院議員秘書になったが、その代議士も成田高校野球部OBで、車のナンバーも8989、野球が大好きだ。引退後も、ゴルフに旅行、野球観戦などお付き合ひ頂いている。

四十八歳ころ、同級生から封筒を受け取った。小川先生からで、千葉日報の野球の切り抜きが入っていた。三十年経つてのサブライズに感動した。小川先生没後、奥様から「主人はこの切り抜きが自慢でした」と聞き涙が溢れた。

四十九歳で、ついに野球の最高峰、MLBを観戦した。観客が非常に面

白い。応援もするが、踊ったり、プーイングしたり、個々に楽しんでいる。シアトル、SF、LA、NY、トロント、霊柩車などの仕入れのついでに各地で観戦した。ヨーロッパ各地へも赴いたが、野球のグラウンドはどこにも無かった。

平成二十七年七月（五十五歳）、小川先生の奥様から手紙が届き、滝口恵一からも電話が入った。急いで東邦佐倉病院に行くと、小川先生は呼吸器を付け、「うんうん」と頷き、私だと分かって下さった。その二日後の七月二十五日、七十七歳で亡くなった。葬儀は成田の教会で執り行われ、私は『故人の思い出』を涙ながらに語った。出棺の霊柩車が到着すると、なんと私が納車した霊柩車だった。小川先生との縁を感じた。

六十歳で、右肩腱板断裂の手術をした。一年がかりで直し復帰したが限界だった。今年六十二歳で草野球から引退した。



小川先生からの切り抜き（千葉日報社発行）
「千葉日報 1977年7月23日付掲載」

仕事は、創業十九年の霊柩車関係で、『アサダ株式会社』を経営している。ボランティアで、江戸川区民生・児童委員、小学校・中学校の学校評議員、社協の評議員などを拝命している。息子と孫の野球人生を見守る、という私の野球人生は続く。

※文中、先生をあだ名・呼び捨てにしたことをお許しください。

※新聞記事掲載につきましては、千葉日报社様の認諾をいただいています。



1977年 修学旅行（2年C組）鳥羽御木本銅像

学 校 の 近 況

一、在籍数（令和四年四月五日現在）

《中 学》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	181 名	171 名	197 名	549 名
女子	126 名	132 名	116 名	374 名
合計	307 名	303 名	313 名	923 名
学級数	8	8	8	24

《高 校》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	183 名	174 名	177 名	534 名
女子	118 名	148 名	133 名	399 名
合計	301 名	322 名	310 名	933 名
学級数	8	9	9	27

二、令和四年度 主な学校行事の日程

文化祭「銀杏祭」(中高合同)

九月十七日(土)・九月十八日(日)

※感染拡大防止対応の為、保護者のみ公開。

体育祭(中学)十月八日(土)

※感染拡大防止対応の為、生徒のみで実施。

入学試験

中学校

推薦……………令和 四 年十二月一日
 前期……………令和 五 年一月二十一日
 後期……………令和 五 年二月三日

※コロナ感染状況により変更される場合があります。

三、部活動の活躍

(令和三年四月～令和四年三月)

※県大会レベル以上を掲載。個人競技については上位入賞者および関東大会以上の出場者は氏名を掲載。

中 学

●水泳部

令和3年度 千葉県中学校水泳競技大会
 兼 第61回全国中学校水泳競技大会予選会
 兼 第45回関東中学校水泳競技大会予選会
 男子400mメドレーリレー
 第3位 4分20秒06
 関東出場権獲得
 (1A市毛志美・3日小堀拓人・1日藤原陽希・3日宮岡俊之)
 男子200m個人メドレー
 第8位 2分22秒54
 関東出場権獲得
 3日宮岡俊之
 第45回関東中学校水泳競技大会
 男子400mメドレーリレー
 第8位 4分20秒38
 (1A市毛志美・3日小堀拓人・1日藤原陽希・3日宮岡俊之)
 男子200m個人メドレー
 第36位 2分22秒07
 3日宮岡俊之

●硬式テニス部

第7回私立南関東大会2位
 女子団体 出場 ベスト16
 瀬戸井水緒(2B)

●卓球部

第35回千葉県中学校卓球大会
 男子団体 出場
 第75回千葉県中学校総合体育大会
 男子団体 出場
 第75回千葉県中学校総合体育大会
 男子個人 出場
 上野萬里(3C)
 新井清顕(3D)
 令和3年度千葉県中学校オープン
 新人卓球大会
 男子・女子団体 出場
 令和3年度千葉県中学校オープン
 新人卓球大会
 女子個人 出場
 一色夏実(2E)
 永井梨紗子(2G)
 城石和花(2D)
 小川彩華(2H)
 江戸川区関東中学校招待卓球大会
 女子団体 第5位
 第67回全日本中学校通信陸上競技大会千葉県大会
 男子個人4名 女子個人2名 出場
 第75回千葉県中学校総合体育大会
 陸上競技の部
 男子個人4名 女子個人2名
 男子リレー 出場
 第72回千葉県中学校男子駅伝大会出場
 第36回千葉県中学校女子駅伝大会出場
 (サッカー部、バスケットボール部、水泳部、剣道部との合同チームで出場)
 令和3年度千葉県中学校総合体育大会柔道大会
 女子個人 3位
 藤田 楓(3E)

●陸上競技部

●柔道部

●中学オーケストラ部

(・高校オーケストラ同好会)
 第28回全国高等学校選抜
 オーケストラフエスタ出場

高校

●硬式テニス部

令和3年度関東高等学校テニス大会
千葉県予選会
男子団体 出場
令和3年度千葉県総合体育大会
テニス大会
男子団体 ベスト16
女子団体 出場
令和3年度千葉県高等学校
新人テニス大会
男子団体 ベスト16
女子団体 ベスト32
男子シングルス 出場

●陸上競技部

令和3年度 千葉県高校総体陸上大会
個人・リレー 出場
令和3年度 千葉県高校新人陸上大会
個人・リレー 出場

●バスケットボール部

第74回千葉県高等学校総合体育大会
男子 ベスト32
●高校オーケストラ同好会(・中学オーケストラ部)

第28回全国高等学校選抜
オーケストラフェスタ 出場
第28回全国高等学校選抜
オーケストラフェスタ 選抜合奏出場

- 高野 悠 (2B)
- 山口夏鈴 (2D)
- 山口晴己 (2E)
- 若山優哉 (1C)
- 浪花大暉 (1F)

四、有志活動の活躍

(令和三年四月〜令和四年三月)

※県大会レベル以上を掲載。個人競技については
上位入賞者および関東大会以上の出場者は氏名
を掲載。

高校

●囲碁

第45回高校囲碁選手権大会 千葉県大会
男子団体戦 準優勝
(高校3年平野修吾、西田琢己、
高岡功亮)

五、ご退職の先生

木村剛一先生(国語)、小村卓二先生(歴史)が令和
三年度末で退職になりました。

アウトード贈呈部活からの報告

◆首都圏私学チャンピオンズカップ出場報告

中学サッカー部顧問 岡野 浩貴

首都圏私学チャンピオンズカップは、東京都
八校、神奈川県三校、埼玉二校、千葉二校、前
年度優勝チームの都県から一校の計十六校で首
都圏私学中学校サッカー部のナンバーワンを決定
する大会である。出場校は強豪校ばかりである
ため、本校サッカー部では、千葉大会を勝ち上
がり、出場することを毎年目標としている。前
年度は、当大会に出場するための私学千葉大会
を準優勝というかたちで、四年連続の出場を決
めることができた。

今回の首都圏私
学チャンピオンズ
カップでは、新型
コロナウイルスの
影響もあり、試合
数をできるだけ減
らすために、トー
ナメント方式が採
用された。一回戦
で、東京都代表の
暁星中に、善戦し
たものの、結果は
〇―二。一回戦敗



◆中学水泳部

三年H組 宮岡 俊之

退となった。残念ながら一回戦敗退となってし
まったが、当大会を通じ選手の成長を見ること
ができたので、とても意味のある大会であつた
と思う。

最後に、年末での試合の中、選手の応援やサ
ポートをしてくださった保護者の皆様に感謝申
し上げます。本当にありがとうございました。

令和三年度 中学水泳部の部長を務めさせて
いただきました、宮岡俊之です。

自分は中学水泳部の部長として、そして東邦
中学の生徒として精一杯、部活動に専念させて
いただきました。後輩にも恵まれ、全国までは
いかずとも、個人種目もリレー種目も関東大会
までは出場することができました。このことは
顧問の先生方、友人はもちろんOB、OGの方々
の存在が大きかったなと思います。

中学校生活

最後の公式大
会となった関
東大会に出場
するにあたり、
家族など、手助
けをしてくれ
た方たちへの
感謝を忘れず
に泳ぎ切りま
した。



結果として、個人種目は三十六位、リレー種目は八位となり、決して満足のいくような結果ではありませんでしたが、横浜での宿泊も含めて、とても楽しい時間を過ごせたのではないかなと思います。

最後になりますが、中学の間ご支援くださった方々に感謝するとともに、高校でもより一層頑張っていけますのでご支援、応援のほどよろしくお願ひします。

◆岡留大和 2022年 ver.

東邦高校水泳部 岡留 大和

昨年の夏は、怪我もあり思うように練習ができず多くの人の期待に応えることができない年になりました。その様な中でもインターハイでは100m平泳ぎで三位を獲得しました。応援してくださった卒業生の皆様に感謝いたします。

二〇二二年の夏は、アメリカのハワイで行われるジュニアパンパシフィック選手権という国



際大会の代表選手に選ばれました。その試合で優勝を目指しています。他の試合でもこの先の試合すべてで勝つつもりでいます。勝つことで、期待して下さる方を喜ばせることができるように日々精進していきたいと思っています。

学業の方も先生方の支えがあり、日々励んでおります。文武両道の実感を得られており、少しずつ成長を感じることができていますが、現状に満足せずにこれからも上を目指して努力を続けていきたいと思っています。

二〇二二年の岡留大和に乞うご期待！

◆夢の全国大会へ

中学女子硬式テニス部 簾持 花埜

私達女子硬式テニス部は、コロナ禍により新人戦がなく、予選結果で惜しくもあと一歩関東大会出場に届かず、とても悔しい思いをしました。その悔しさをバネに『南関東大会出場』を目標に気持ちを切り替え、南関東予選に臨みました。

試合当日、緊張はありましたがミスも少なく順当に勝ち上がり、決勝へ。決勝戦は最後の最後まで接戦となりました。一ポイントの重みがありとても緊張しましたが、最後まで集中してプレーをすることができ勝つことができました。チーム全員で勝ちとった勝利で、とても嬉しかったのと同時に、ほっとした気持ちでいっぱいでした。これにより予選会を一位通過し、南関東大会への出場が決まりました。

その後十一月に行われた南関東大会。会場の



天台へ到着し初めて県外の強豪校の練習を見て、レベルの高さを感じ緊張感が増しました。何とか一・二回戦を突破し、迎えた準決勝は全国大会出場権獲得のかかる大事な試合。かなりのプレッシャーがありました。チームの持ち味である明るさで気持ちを盛り上げて試合に向かいました。仲間と作戦を立て、声を掛け合いながら一ポイントを大事に、そして今を楽しもうという気持ちで積極的なプレーをすることができました。互いに競った試合に勝った瞬間、全国に行けるんだ！と本当に嬉しかったです。決勝では神奈川の強豪校に敗れましたが、本大会を二位で通過し、全国大会への切符を掴むことができました。

そして十二月二十六日、夢にみた神戸での全国大会！開会式は緊張よりもワクワクする気持ちでいっぱいでした。団体戦が始まり、いざコー

トへ立つと手足が震え、いつも通りのプレーができるのか心配でしたが、周りの声援や支えで徐々に自分達のペースを取り戻す事ができ、チームも初戦を突破する事ができました。二回戦は今大会優勝校との対戦でした。

私は偶然にもセンターコートでの試合となりました。センターコートは他のコートよりもボールの音が響き、緊張感に包まれ焦りで頭がいつぱいになりました。ただ少しでも長くこのコートにいたいと思いました。しかし対戦相手は優勝校、どうやっても続けてポイントを取ることが難しく、圧倒的な力の差を感じました。残念ながら二回戦敗退となりました。

大会三日目、個人戦は二人が出場し、それぞれ二回戦進出を果たしました。

団体戦とはまた違った緊張感がありました。一球一球を大切に思い切ったプレーができました。全国の素晴らしい選手達との試合、またスパープレーを間近で見た事、どれも良い経験となりました。そして一回戦突破は私達にとって誇れる結果であり、皆で過ごした四日間には本当に一生の宝物です。

部長として私はテニスの楽しさを伝えたいという想い、そしてチームをまとめていくというプレッシャーもありましたが、皆の努力が全国大会出場という結果に繋がりを、今まで頑張ってきて本当に良かったと心から思います。

今回、全国大会に出場するにあたり支えて下さった先生方、技術的・精神的な面でサポートして下さったOB OGの皆様、先輩方、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

そして何よりも部員の皆に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度はコロナ禍のため部員全員で試合に行く事が出来ず残念でしたが、総体に向けてこの貴重な経験を活かし、全力を出し切り悔いのない様に努力していきたいです。私達三年は夏で引退を迎えます。寂しい気持ちもありますが、最後まで笑顔で仲間と過ごし、そして後輩達にもテニスの楽しさを伝えられる様に、一日一日の部活を大切に頑張っていきたいです。

◆スキー部

木村 恒太

現在東邦高校のスキー部には、高校生男子五人、女子三人、中学生男子七人、女子四人が所属し、中高合同で活動しています。東邦のスキー部では、アルペンスキーとクロスカントリースキーの二つに分かれて競技をしています。競技スキーについて知らない人が多いと思うので、この二つの競技について説明したいと思います。

アルペンスキーは斜面の決められたコースを滑り降り、そのタイムを競う競技です。その魅力は何といってもスピードです。大胆かつ繊細な動きの中で生まれるスピードには圧巻されてしまいます。高校生の大会にはスラローム、ジャイアントスラローム、スパージャイアントスラロームの三種目があります。この三種目はそれぞれ通過するは旗門の間隔が違い、間隔が広がるほどスピードが出ます。

クロスカントリースキーは雪原をスキーで滑

ります。アルペンスキーは斜面を降りますが、クロスカントリースキーは平地を進んだり急な坂を登ったりします。日本ではあまりテレビ放映が少ないのでマイナースポーツであると思われるかもしれませんが、ヨーロッパやカナダでは人気のスポーツです。コースの長さは一・二km〜五十kmほどという風に、試合によってスプリントもあればかなりの長距離もあります。中高生の大会では五〜十五kmを滑ります。上りや平地では辛いこともありますが、滑り終わったあとの爽快感は何にも代えがたいです。

千葉県という事で雪国の選手たちと比べると雪上練習が少なかったり、シーズンイン、シーズンオフの時期が違ったりといろいろな工夫しなければならぬ点があります。だからこそ、チーム一丸となって助け合いながら良いシーズンにしていきたいと思っています。



二〇二二年度広報活動報告と 二〇二二年度広報活動方針

広報部 岡田 美秀

同窓会の皆様には平素より本校の広報活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本校広報部の責任者を務めます岡田美秀でございます。本校をとりまく環境と昨年の入試状況、並びに本年度の広報計画につきましてご報告いたします。

【本校を取り巻く状況】

昨年度も千葉県および近都県における中学入試にコロナ禍の状況が大きく影響を与えました。首都圏全体の中学受験率は過去最高基準となりましたが、安心安全を求める傾向、無理のない受験スケジュールや、よりコンパクトな通学圏内での受験校選択がスタンダードなものとして定着しつつあるようです。このような受験生心理のあらわれでしょうか、模試のデータからは県内の私立中学は軒並み受験者数を減らす傾向が予想されておりました。しかし、結果的には前年度並みとなり、見込まれていた大幅な減少はありませんでした。

本校におきましては、医学部を中心とした大

学付属校としての側面と進学校としての側面を有しながら、伝統あるのびやかな校風の中での学校生活を望まれる多くの方々に受験いただくような広報活動を展開しております。近年、渋谷幕張は千葉県内のみならず、首都圏全体で評価される大きな飛躍を遂げられております。また、市川、昭和秀英などの躍進もあり、現在千葉県では競合私立他校それぞれが「私学ブランド」、学校としての特色ある魅力をさまざまにメディアを活用して発信しております。その中で本校も選ばれる進学校としてどのように学校の特色をお伝えしていくべきかが問われる現状であると言えます。

【二〇二二年度の入試報告】

■推薦入試・帰国生入試

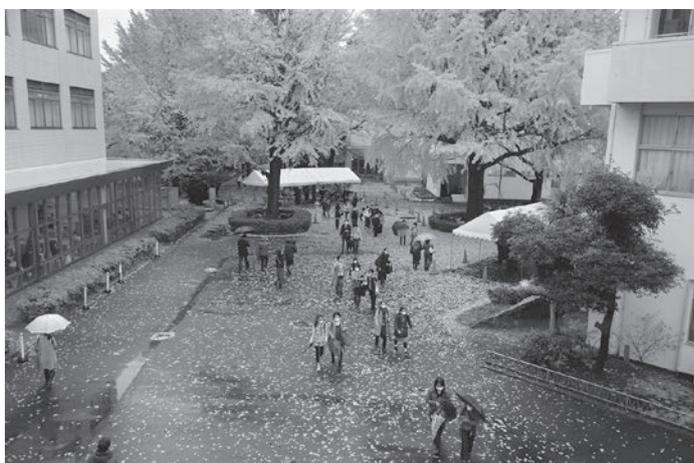
二〇二二年度の推薦入試は募集人数を四十名で県内入試解禁日となる十二月一日に実施しました。受験者数は前年度から九十六名減の六三九名となりました。実質倍率が十五・八倍とやや下がったことは受験生にとっては好ましい傾向であると考えられますが、依然として高倍率の難関入試というイメージもあり、このまま減少傾向となり得ることが懸念されます。

同日実施の「帰国生入試」は四年目となります。初年度から六十一名、八十二名、七十四名

と推移する中、二〇二二年度は五十三名の出願がありました。帰国生の方々を取り巻く状況は、コロナ禍において予測もできない要素が増えているとのことです。

■前期入試

一月二十一日実施の「前期試験」の出願者数は、昨年度二二五八名から二十五名減の二二三三名でした。合格者は九六九名と十五名増となり、実質倍率二・二九倍と昨年（二・二七倍）よりや



や緩和しました。

■後期入試

二月三日実施の「後期試験」は、東京・神奈川県入試の三日目ならびに国立都立中学校の入試日と重なります。志願者は四〇〇名台で推移してきた中、前年度の四四二名に引き続き、二〇二二年度は例年並の四四五名の出願でした。合格者は昨年度は二十一名の発表となりましたが、二〇二二年度は四十七名となり、実施倍率八・四五倍と大幅に緩和されました。

【二〇二二年度活動報告】

コロナ禍の状況が続き、広報活動は本年も大きな制約を受けました。毎月隔週土曜日(原則)に実施している「学校見学会・説明会」は定員を二〇〇名(通常時三〇〇名)に制限して年間での実施を計画しましたが、休校や緊急事態宣言発令などにより中止となる回数もございました。来校の機会を求める受験生からのご要望も多々いただきましたので、七月と八月に学校説明会を追加実施しました。学校見学会は施設外からのご案内とし、校舎内への見学は年間を通じて見送りました。

校外での合同説明会やフェアも多くは中止となりましたが、実施されるイベントには可能な限り参加をいたしました。オンラインで実施されるものも拡充されており、積極的に参加していきましました。

帰国生の方に向けてはオンラインで各国の予備校や日本人学校に向けて積極的に展開していきましました。従来は訪問できなかった地域からの参加も多く見受けられましたので、オンラインによる広報活動も継続していきます。

毎年十月中旬に実施される入試説明会は、従来は第一体育館を会場として定員二二〇〇名を二日実施しておりました。二〇二二年度はコロナ禍での実施方法としてセミナー館視聴覚大ホールを会場として定員二二〇〇名で三回に分けての実施とし、来場できない方にはオンラインでの視聴とさせていただきます。また、当日ご覧いただけない方にはアーカイブ配信を実施しました。

【二〇二二年度活動計画】
本年の広報部の活動としましては、二〇二二年度入試に向けてこれまでの活動方針を引き継ぎながらホームページ等のウェブの活用を強化しながらコロナ禍の現状に合わせたかたちも取り入れて行く予定です。しかしながら、一度は

東邦中高を訪問したいという受験生のご要望にお応えしていくことが欠かせません。正門から中に入って感じることでできる東邦中高の雰囲気が一番の本校志望理由となると考えております。多くの受験生の方に来校の機会をつくれますよう、「学校見学会・説明会」を中心に企画運営してまいります。

同窓生の皆様には、これまで、国内・海外の様々な場所での広報活動にご支援いただきました。重ねて御礼申し上げます。本年もさまざまな制限下での活動が予想されますが、東邦大付属東邦中学校・高等学校のさらなる飛躍につながるよう、広報部員一丸となって活動に専念してまいります。本年度もよろしく願います。

	中学課程	中学帰国生	中学前期	中学後期	
募集人数	40	若干名	240	20	
出願状況	男子出願者	346	32	1393	241
	女子出願者	293	21	840	204
	出願者合計	639	53	2233	445
	志望倍率	15.98		9.30	22.25
受験者数	男子	342	31	1331	220
	女子	290	19	795	177
受験者数合計	632	50	2126	397	
合格者数	男子	24	16	639	23
	女子	16	10	330	24
合格者合計	40	26	969	47	
実質倍率	15.80	1.92	2.19	8.45	
合格最低点	173	152	246	179	
受験者平均	総合	132.4	147.5	237.8	146.4
	国語	53.2	50.5	60.0	50.3
	算数	40.8	42.8	65.9	45.5
	理科	14.8	15.2	49.5	22.1
	社会	23.5		62.3	28.5

2022年2月4日現在

2022年度 入試結果

令和四年度

大学入試結果報告



進路指導部 山崎 宣彦

大学入学共通テスト

令和四年度の大学入学共通テストは、大学入試センター試験から名称変更されて二回目の実施で、一月十五日・十六日に、全国六七七の会場で実施されました。平均点は前年に比べて大幅にダウンし、文系五教科八科目が五〇八点（九〇〇点満点）で前年から四十四点ダウン、理系五教科七科目が五一三点で五十九点ダウンとなりました。

本校の出願者数は二八九名（出願率九十八・六％）で、ほぼ例年並みとなりました。受験会場は前年とは異なる会場で、敬愛大学稲毛キャンパス・神田外語大学の二か所となりました。本校生徒の平均点は、理系五教科七科目が六一・二点（九〇〇点満点）、文系五教科八科目が六二・七・五点となりました。上位層は、得点率八十％（七二〇点）以上は文系二名、理系九名で合計十一名でした。

国公立大学入試

全国の国公立大学の志願者総数は前年比一〇％とほぼ前年並みでした。前年、前々年と二年連続で志願者数が減少していましたが、前期日程では志願倍率が二・九倍と、前年に引き

続き三倍を下回りました。既卒生が減少していること、および十八歳人口の減少による大学志願者数全体の減少による影響が大きかったと思われる。その中で、難関国立大学では、共通テストの平均点が大きくダウンしたにも関わらず、やや積極的な出願が見られました。

私立大学入試

全国の私立大学の一般選抜入試の志願者総数は、前年比一〇％となり、前年までの二年連続の減少に歯止めがかかりました。しかし、安全志向による既卒生の減少、継続するコロナウイルス感染症の影響による経済状況の悪化や、地方から都市部への進学敬遠、私立大学で割合の大きい文系の人気低下などの傾向は今年も継続しているようです。学部系統別では、理工系、医療系でやや増加となっています。

本校の入試結果

今年の卒業生は二九三名と少ないながら、全体としては健闘しました。国公立難関大学の合格者数は昨年とほぼ同じでした。医学部の合格者数は国公立大学と私立大学、および防衛医科大学校を合わせて一〇七名と最近五年間では最多となりました。現役生については、昨年大幅に増加した私立大学医学部でさらに増加し、また早稲田大学、慶應義塾大学、東京理科大学で昨年より合格者数が増加するという結果でした。

【表 1 過去 3 ヶ年間の共通テスト、センター試験平均点】

年度	科目	国語		数学		外国語		理科					地歴			公民		
		国語	国語	数学 I A	数学 II B	英語筆記	リスニング	物理基礎	化学基礎	生物基礎	物理	化学	生物	日本史 B	世界史 B	地理 B	倫理	政治経済
令和 2 年度	本校	144.9	69.2	69.4	153.3	35.5	38.4	36.5	36.0	77.4	69.6	70.6	81.2	80.6	76.1	87.0	71.1	71.5
	全国	119.3	51.9	49.1	116.3	28.8	33.3	28.2	32.1	60.7	54.8	57.6	65.5	63.0	66.4	65.4	53.8	66.5
	差	25.6	17.3	20.3	37.0	6.7	5.1	8.3	3.9	16.7	14.8	13.0	15.7	17.6	9.7	21.6	17.3	5.0
令和 3 年度	本校	144.0	76.2	80.4	78.3	71.5	40.6	29.7	34.3	74.1	71.9	88.2	79.3	79.9	68.9	76.3	82.0	75.8
	全国	117.5	57.7	59.9	58.8	56.2	37.6	24.7	29.2	62.4	57.6	72.6	64.3	63.5	60.1	72.0	57.0	69.3
	差	26.5	18.5	20.5	19.5	15.3	3.0	5.0	5.1	11.7	14.3	15.6	15.0	16.4	8.8	4.3	25.0	6.5
令和 4 年度	本校	128.9	56.2	61.2	80.3	75.4	40.6	34.6	30.5	73.8	62.6	69.7	66.4	83.3	64.9	77.6	87.0	73.7
	全国	110.3	38.0	43.1	61.8	59.5	30.4	27.7	23.9	60.7	47.6	48.8	52.8	65.8	59.0	63.3	56.8	69.7
	差	18.6	18.2	18.1	18.5	15.9	10.2	6.9	6.6	13.1	15.0	20.9	13.6	17.5	5.9	14.3	30.2	4.0

【表2 令和4年度主な大学合格者数一覧】

国公立大学等			
大学名	合格者数	学部名	内訳数
旭川医科	2	医	2
北海道	1	工	1
岩手	1	農	1
東北	6	工	4
		医	1
		薬	1
秋田	2	医	2
筑波	8	人間	1
		情報	1
		理工	2
		医	2
		総合理I	2
群馬	1	医	1
埼玉	1	理	1
千葉	23	法政経	2
		教育	1
		理	2
		工	7
		医	3
		薬	4
		看護	2
		園芸	2
		海洋工	2
東京海洋	4	海洋生命	1
		海洋資源	1
		理	2
お茶の水女子	3	生活科学	1
電気通信	1	情報理工	1
東京外国語	1	国際社会	1
東京工業	16	理	2
		工	4
		物質理工	3
		情報理工	2
		生命理工	3
		環境社会	2
		工	1
東京農工	3	農	2
一橋	2	商	2
横浜国立	1	経済	1
金沢	1	医薬保健	1
信州	2	繊維	1
		医	1
静岡	1	地域創造	1
滋賀医科	2	医	2
京都	2	工	2
神戸	1	国際人間	1
愛媛	2	法文	1
		医	1
高知	1	医	1
大分	2	医	2
国際教養	1	国際教養	1
埼玉県立	2	保健医療	2
東京都立	1	人文社会	1
九州歯科	1	歯	1
防衛医科	5		5
防衛	1		1
国公立合計	101		101

主な私立大学			
大学名	合格者数	学部名	内訳数
岩手医科	1	医	1
東北医科薬科	3	医	3
国際医療福祉	15	医	14
		成田看護	1
		獨協医科	2
埼玉医科	1	医	1
千葉工業	28	社会シス	1
		情報科学	2
		工	14
		創造工	7
		先進工	4
		歯	2
東京歯科	2	文	7
青山学院	19	法	1
		経済	2
		経営	2
		教育人間	2
		理工	5
		文	3
学習院	10	法	3
		国際社会	1
		理	3
		医	3
北里	8	薬	4
		獣医	1
		杏林	7
慶應義塾	52	医	7
		文	4
		法	2
		総合政策	3
		経済	8
		商	6
		理工	21
		環境情報	1
		医	1
		薬	5
		看護医療	1
国際基督教	2	教養	2
芝浦工業	34	工	16
		シス理工	11
		デザイン	1
		建築	6
		国際教養	1
順天堂	13	医	7
		スポーツ	1
		医療看護	3
		保健医療	1
		文	2
上智	32	外国語	2
		法	4
		経済	8
		総合人間	4
		理工	12
昭和	10	医	7
		歯	2
		薬	1
		文	7
		法	5
中央	48	総合政策	2
		経済	1
		商	2
		国際情報	1
		理工	30
東京医科	3	医	3
東京慈恵会医科	3	医	3
東京女子	10	現代教養	10
東京薬科	7	薬	4
		生命科学	3
		経営	10
東京理科	163	理	22
		工	25
		理工	68
		先進工	20
		薬	18
		理	10
東邦	38	医	20
		薬	8

大学名	合格者数	学部名	内訳数
日本	37	法	6
		経済	3
		文理	6
		工	5
		生産工	2
		理工	5
		医	1
		歯	2
		薬	5
		生物資源	2
日本医科	3	医	3
法政	76	文	4
		法	9
		経済	5
		経営	14
		社会	1
		国際文化	1
		人間環境	3
		情報科学	8
		キャリア	1
		デザイン	1
		理工	23
星薬科	12	生命科学	6
明治	89	薬	12
		文	4
		法	10
		政治経済	20
		経営	6
		商	6
		国際日本	2
		総合数理	4
		理工	28
		農	9
明治薬科	3	薬	3
立教	55	文	7
		現代心理	6
		法	7
		経済	14
		経営	4
		社会	1
		コミュニ	3
		異文化コ	1
		理	12
		文	5
早稲田	63	文化構想	5
		法	3
		政治経済	2
		商	5
		社会科学	2
		教育	10
		人間科学	3
		国際教養	1
		基幹理工	6
		創造理工	13
先進理工	4		
スポーツ	4		
麻布	2	獣医	2
聖マリアンナ医科	3	医	3
同志社	2	経済	1
		理工	1
立命館	4	文	1
大阪医科薬科	1	産薬社会	3
関西	5	医	1
		文	1
		政策創造	2
関西医科	1	経済	1
近畿	2	システム	1
関西学院	8	医	1
		総合政策	1
		商	1
		社会	1
福岡	1	教育	4
福岡	1	医	1
立命館アジア太平洋	4	国際経営	4
その他	202		202
私立合計	1084		1084

新入会員を迎えて

この春、東邦高校を卒業した六十八期生二九三名は、コロナ禍の中で三年間の高校生活を過ごした訳ですが、新生活に向けての力強いメッセージを寄せてくれましたのでご覧ください。(六十八期生からのメッセージは「同窓生のページ」にも掲載しました。)

私 たち六十八期生は、高校一年の終わり頃からコロナの影響でこれまでとは異なる形の学校生活を送りました。しかしそれでも東邦での生活は充実した日々でした。

特に思い出深いのは部活動です。中学一年の時は英語部に所属し、それ以降は演劇部に所属していました。人前に立つのが得意な方ではないので、最初は自分が演劇部に入るとは思ってもいませんでした。誘ってくれた友達には本当に感謝しています。高校演劇部では年一回大会があり、劇の練習はもちろん、様々な小道具・大道具を作成したり、本番に使う機械の段取りをしたりと、大会に向けてやることは多くあります。元々ギリギリな練習時間がコロナの影響でさらに減り、毎回大会までに間に合うのかどうかと焦りがありました。しかし、同級生や先輩、後輩、顧問の先生との皆で一時間の芝居を作り上げる達成感他では得られない最高の経験だったと思います。自分は何かを創ることが好きなんだと改めて実感しました。

また、高校二年次からは多くの行事が中止になっ

たこともあり、私の生活は大学受験に向けて勉強一色となりました。休校でオンライン授業になっていった時に化学の授業の面白さに気付き、朝のホームルーム前に数学や物理、化学の質問をし、昼休みと放課後に英語の添削をしていたくという日々も、過ぎてみればあつという間でした。本当にありがとうございました。友達とわからない問題を教え合ったり競い合ったりしたこともいい思い出です。目標とする友達がいて、逆に私を目標としてくれる友達がいたからこそ受験勉強を乗り越えられたのだと思います。

中学入学当初は自分が将来どのような道に進むのか全く想像が付きませんでした。現在私は東京工業大学物質理工学院に所属し、主に理工系教養科目を幅広く学んでおります。オンライン授業もありますが、対面の授業や実験も多く、憧れだったキャンパスで学べていることがとても楽しいです。東邦での六年間の「自分探しの旅」は多くの先生方や友人に支えていただき、ここまで進むことができました。大学や大学院で何をするのか、その先の将来どうするかという見通しはまだ立っていません。天才と呼びたくなくなってしまような頭のいい人や進みたい道を決めている人が周りにいる中で焦りを感じることもありですが、東邦で先生方や友達との関わりで学んだことを大切に、自分の道をつくっていききたいと思っています。

六十八期生 小泉 香奈



母校の桜

同窓会事務局より

事務局担当理事 岡田 隆治 (36期生 母校教員)

- (1) 事務員の方の同窓会事務局での執務時間
水曜日 9:30～14:30 土曜日 9:30～14:30
同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします
直通電話 047-472-1160 *FAX 番号は電話番号と同じです
- (2) 緊急の連絡に関して
上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません
緊急のお問い合わせは学校代表 047-472-8191 にお電話いただき、「同窓会関係教員」を呼び出してください
- (3) ホームページ等に関して
URL <http://www.shiseinin.org/> E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

◆同窓会は、同期会、クラス会、部活のOB・OG会開催のサポート等もしています。詳細につきましては、事務局にお問い合わせください。